



令和元年度

淑徳大学地域支援ボランティアセンター活動報告書

淑 徳 大 学

## 巻 頭 言

本センターは、淑徳大学の全学的な地域支援ボランティア活動について、本学の建学の精神「利他共生の理念と実学教育」を行動化し、その実践を教育研究と社会貢献に資することを目的として設置されたものです。

各キャンパスでは、学生、教職員によるボランティア活動が展開され、さまざまな取り組みが行われてきました。本センターは、この取り組みが活発化されることを支援し、かつ、学生がどのキャンパスのどの学部・学科に所属していても、そして教職員も、淑徳大学の一員というアイデンティティを保ちながら地域支援活動、ボランティア活動等を考え、行動する機会として、本センターの役割を推進させるため、各学部の教職員と短期大学部の教職員も参加し、教員・職員の関係を超えて、お互いが対等な立場で協議できる運営委員会を構成し、全学的な取り組みについて協議をすすめています。

本センターの主な活動内容としては、災害支援から始まったことも特徴のひとつで、東日本大震災で被災された東北の地(宮城県石巻市雄勝町)の災害支援、復興支援活動、学習支援、パネルシアター、スタディーツアーを企画しこれまで継続的かつ全学的に取り組んでまいりました。さらには、認知症問題にも取り組み、自治体と協力しサポーター養成講座にも取り組んでいます。

また、令和元年度は、千葉県、埼玉県において豪雨災害があり、安定した生活を揺るがす事態が発生しました。本学では全キャンパスで義援金を募集し、千葉県内の災害ボランティアセンターに学生と教職員が継続的に活動したほか、埼玉県、長野県にも先遣隊を派遣し、ボランティアニーズを把握し活動の可能性を探りました。また、新型コロナウイルスの関係で、3月に予定していたパネルシアターキャラバンが中止となり、本センター事業運営にも影響は出ています。

本書は、平成30年度、令和元年度に本センターが主催した活動を中心とした報告書です。全学的な取り組み、活動内容をご理解いただくとともに、プログラムに参加した学生の成長を読み取っていただければ幸いです。

今後も、本センターは、利他共生の考えのもと「今、私たちにできることは何か」をたえず自問自答しながら地域社会の一員としても成長していくことができる、学生・教職員と地域の方々の学びのプラットフォームの役割を果たしていきたいと存じます。

最後になりましたが、本学学生と教職員によるボランティア活動は、受け入れてくださる地域の皆様の許しがあってはじめて成り立つものです。ここに、ご協力いただいた地域の方々、関係機関の方々に改めて感謝を申しあげ、引き続き、皆様と「共に生きる社会の実現」に向けて、今、私たちにできることは何か、地域の方々と共に行動化できるようになる学生・教職員像を描いていけるセンター運営をめざしていくことを願い、巻頭言とさせていただきます。



# 目 次

## 巻頭言

1. センター活動 .....	1
◆学習支援ボランティア	
◆パネルシアターキャラバン	
◆スタディーツアー	
◆台風第15号、第19号等に関連するボランティア活動	
◆認知症サポーター養成講座	
2. 各キャンパスにおける活動内容 .....	65
◆千葉キャンパス	
◆千葉第二キャンパス	
◆埼玉キャンパス	
◆東京キャンパス	



## 1. センター活動



淑徳大学 東日本大震災復興支援プログラム

## 第 9 回 学習支援ボランティア



## ◆ボランティアの目的

この学習支援ボランティアは、東日本大震災以降、淑徳大学と交流が続いている宮城県石巻市立雄勝中学校の生徒たちとの夏休みの学習を支援することを目的とし、被災の現実と復興の現状を人々にふれて、本学の建学の精神である「利他共生」の意味と「私たちに何ができるか」を体験的に学びます。

## ◆スケジュール

日 時		行 程
7/22 (月)	12:00~13:00	オリエンテーション
7/31 (水)	9:15	東京駅新幹線 北のりかえ口乗換改札口 9:15 集合 9:40 東京駅発 (やまびこ 45 号) -10:05 着大宮 10:06 発-11:49 古川着
		昼食 (新幹線の中にてお弁当)
	13:30	被災地視察 (農家 赤間邸訪問): 震災後 2 日目からの避難所支援の取組とその後の活動のお話 (石巻市飯野絵図沢 8) 17:00 出発
	17:30	旧大川小学校跡地 訪問
	18:30	亀山旅館着
	19:00	夕食
	20:00~	ワークショップ・講話 (ゲストスピーカー: 清水麗氏 (麗澤大学外国語学部教授))
8/1 (木)	6:00~	起床 6:00 朝食 6:30 出発 7:30
	8:00~ 9:30	雄勝中学校 駅伝の練習補助
	9:30~10:00	プール補助
	10:00~11:30	学習会・部活動支援
	12:00~13:00	昼食
	14:00~	被災地講話視察・ボランティア・ワークショップ: 雄勝桑浜 漁師の永沼邸訪問 (東日本大震災後の淑徳大学ボランティア活動について講話) 協力: 清水麗氏 (麗澤大学外国語学部教授)
	18:30	帰宿
	19:00	夕食
	20:00	ワークショップ (振り返り、打合せ等)
8/2 (金)	6:00~	起床 6:00 朝食 6:30 出発 7:30
	8:00~ 9:30	雄勝中学校 駅伝の練習補助
	9:30~10:00	プール補助
	10:00~11:30	学習会・部活動支援
	12:00~13:00	昼食
	15:30~17:04	15:30~仙台発 (はやぶさ 24 号) -17:04 東京到着
	17:04~解散	

## ◆事前学習、事後学習について

### ◎事前学習

事前学習を下記の通り、各自で調べ、事後レポートの内容に盛り込んでください。

(1) 訪問地の被災前の地域性、震災直後の被災状況、復興について調べる。

(宮城県石巻市、宮城県石巻市雄勝地区)

(2) 訪問先の生徒たちと交流を深める方法や勉強指導方法について、事前に検討する。

(3) 淑徳大学の学生として建学の精神「利他共生」を振り返り、今後、地域社会にボランティア活動を含め、貢献や支援をできるかについて考える。

### ◎事後学習

①事前学習内容、体験、感想をレポートにまとめて、メールにて提出してください。

提出形式：2000文字以上 A4 サイズ 2枚以内 wordにて作成(写真張り付け可)

表題(自由につけて構いません)・学籍番号・学部・学科・学年・氏名を記載して、提出。

提出期日：8月30日(金) 厳守

提出先：淑徳大学 地域支援ボランティアセンター担当 成田

(レポートは一部抜粋を本学HP掲載と、淑徳大学 地域支援ボランティアセンター活動報告書に掲載します。)

②雄勝小・中学校へのお礼状(2種)

生徒対象に色紙を作成し、教員対象にお礼状を作成してください。

【雄勝中学校】①生徒宛／②先生宛

大学で取りまとめて雄勝小学校・中学校に送るため、期限厳守で千葉キャンパス 成田宛にお送りください。返送期限：8月19日(月) 厳守

## ◆ボランティア先

雄勝小・中学校 石巻市雄勝町大浜字小滝浜 2番2

TEL 0225-58-2245(中学校) ご担当：教頭 竹内 先生

## ◆宿泊先

亀山旅館 宮城県石巻市雄勝町大須字大須 218-2 TEL 0225-58-2025

雄勝タクシー(移動手段) TEL 0225-57-2020

## ◆参加者名簿

1	千葉キャンパス	社会福祉学科	2	西之園 花奈	女
2	千葉キャンパス	社会福祉学科	1	岡田 愛有美	女
3	千葉キャンパス	社会福祉学科	1	鈴木 亜美	女
4	千葉キャンパス	社会福祉学科	1	高阪 葵	女
5	千葉キャンパス	教育福祉学科	4	土屋 美緒	女
6	千葉キャンパス	教育福祉学科	4	吉川 愛夢	女
7	東京キャンパス	表現学科	1	浅井 しおり	女

## ◆引率教職員

1. コミュニティ政策学部 教員 芹澤 高斉

2. 大学地域支援ボランティアセンター 職員 成田 真美

## ◆集合場所

**【東京駅から乗車の場合】東京駅 北のりかえ口 新幹線乗換改札 (09:15)**

東京駅新幹線北のりかえ改札右横の電光式時刻表まへの大きな柱に集合してください。



**【大宮駅から乗車の場合】新幹線 やまびこ 45号車内 (直接 10:06 発の新幹線に乗り込んで、指定座席に集合してください) 乗り遅れないように、10分前 (09:56) には乗車する新幹線のプラットフォームに集合してください。**

## ◆ボランティア保険

全国社会福祉協議会のボランティア活動保険に加入します。

期間：加入手続き日 ～ 2020年3月31日 保険：500円

※ 補償内容等は『ボランティア活動保険』を参照してください。

※ 当日は、健康保険証 (又はコピー) も持参してください。

## ◆持ち物

- ・ 宿泊に必要な物 (寝巻・洗面具・バスタオル・常備薬等) は全て各自で準備してください。  
※ 宿泊先にはアメニティーグッズは一切ありません。
- ・ 服装は動きやすい洋服と靴、上履き、帽子、雨具、体操できる服、プール指導用水着、筆記用具、サブバッグ、ネームホルダー (現地配布) ※ 亀山旅館で洗濯することができます。
- ・ 朝晩は涼しいので羽織れるものがあるとよい。
- ・ 事前学習で配布したファイル

## ◆費用等について

- ・ 参加費の中には、往復交通費 (新幹線・宿泊費・現地滞在時の食事が含まれています。)

**※参加費 15,000円、保険代 510円 (未加入者のみ) は当日回収します。**

## ◆注意事項

- ・ 亀山旅館から雄勝中学校まではタクシーにて移動します。
- ・ 体調が悪いときには、無理をせず、引率教職員申し出て、指示に従ってください。

## 雄勝で過ごした 3 日間

総合福祉学部 社会福祉学科 2年 西之園 花奈

### 参加した目的

- 1、震災ボランティアに興味があったから。

淑徳大学がボランティア活動に盛んなので学生生活の間に 1 度は経験したかった。

- 2、東日本大震災を風化させないため

「君たちはこの震災を伝えていく必要がある」

授業で先生から受けた言葉で、将来社会の教員になるうえで東日本大震災を覚えていない、または経験していない生徒たちを受け持った時にこの震災を忘れさせないために話ができるように、まずは自分が当時震災にあった方々から話を聞かせていただいてこれからは役立てたいと思った。

### 活動の感想

#### 被災地視察

最初に向かった赤沼さんのお宅では、とれたての野菜や自家製のブルーベリージャムが乗ったヨーグルトをいただきながら、今回参加したきっかけや震災当時の様子をそれぞれ発表しあって振り返っていった。

赤沼さんの家の被害は少なかった。しかし、少し先のほうでは大きな被害があり支援を求める手紙をもらったことをきっかけに近所の方々と協力しておにぎりを 200 個配ったと聞いた。自分たちも被害にあい、またいつ大きな地震や津波が来てもおかしくない状況であったのにも関わらず周りの人のために動く行動力がすごい。助けたい気持ちがあっても実際に行動に移せる人は限られる。赤沼さんは自身が農家だからこそ自給自足の環境になってもある程度、不自由なく過ごすことができたから動くことができたとおっしゃっていた。誰かを助けるためにはまず自分自身の安全が確保できなければ何もすることができないと実感し、農家の方の偉大さを身をもって感じられた。

#### 雄勝中学校

1 日目は駅伝練習と学習支援の両方を行った。前半は海が見えるグラウンドで中学生とともに走った。普段運動することもないので何度もつらいと思ったが、前を走る中学生を見たら自分も頑張らないと気持ちを奮い立たせられ、終わった後は達成感を感じられた。学習支援では自分から何も動くことができず、メンバーの一人が生徒に話しかけたのをきっかけに一緒に話せるようになった。学校や地域の話などいろいろ話し、距離を縮められたが初対面の子どもたちとの接し方に課題が多く見つかった。

2 日目は暑さ指数が危険に達していたため学習支援のみになった。登校している中学生も昨日とは異なるためまた 1 からのスタートだったが、昨日何もできなかったから今日は積

極的に動くことと決め、担当する子が問題に躓いたのをきっかけに声をかけた。最初は集中している姿に声をかけるのに戸惑ったが、だんだん会話ができるようになり都道府県探しのプリントをやった時には生徒のほうから話しかけてくれたりハイタッチしたりと心を開いてくれたときは絆の深まりを感じられ、すごく嬉しかった。

しかし子どもたちとの会話から知った生徒数が少ないため本当はやりたいスポーツや部活ができないこと、学習が遅れていることなどまだ課題が残っている。雄勝の子どもたちがもっと学べる・可能性を引き出せる環境になることを願う。

### 被災講和視察

大学教授の清水さんと合流し、漁師の長沼さんの家にお邪魔して購入したお弁当ととれたたてのワカメ、ウニ、ホヤをご馳走になった。どれも絶品で、特に私が今まで食べたウニの中でここでいただいたものが1番美味しかった。その後は当時の震災の状況や淑徳生がボランティアに来た時の話を聞かせていただいた。

特に印象的だったのは、「力仕事だけがボランティアではない、寄り添ってくれることも立派なボランティア活動である」という言葉だ。テレビなどを見ているとどうしても瓦礫運びなどがイメージづけられるが、震災により傷ついた人々の話し相手をしたり炊き出しを手伝ったり笑顔で挨拶してくれることもその場の雰囲気が変わるから大切な役割になる。これからのボランティア活動で小さなことでも一つ一つの行動がその人に影響を与えられる可能性があることを学んだ。笑顔と挨拶は常に心掛けていきたい。

予定では手伝いをするはずだったが、想像以上の暑さのため漁船乗り体験に変更され、1番前に乗せてもらい風が気持ちよくあつという間の10分間でずっと乗っていたと思えるくらいの絶景だった。同時にあたり一面に広がる澄んだこの海が8年前には恐ろしいものであったなど考えられなかった。

### 3日間を経て

泊まりがけのボランティアは今回が初めてで、しかも参加メンバーのほとんどが初対面で最初はとても不安でした。しかし、この活動に参加できてよかったと心から思います。

美味しい海鮮、満天の星空、船や探検で見た綺麗な景色、ヤギとのお散歩、などどれも大切な思い出です。

3日間を共に過ごしたメンバーや引率の先生方、優しい亀山旅館さん、温かく受け入れてくださった現地の人、短い時間だけど交流してくれた中学生、いろんな話を聞かせてくださった先生方、サプライズで差し入れしてくださったタクシー運転手さん、皆さんに出会えてよかったです。この3日間で人との出会いのすばらしさを学ばせていただきました。本当にありがとうございました。

## 温かい町

総合福祉学部 社会福祉学科 1年 岡田 愛有美

<7月31日>

東京駅で二泊三日を共にする仲間と待ち合わせ、新幹線に乗り宮城県に向かった。古川駅に到着し、タクシーに乗り換えて、道の駅で昼食を食べた。しっかりと腹ごしらえをしたあと、赤間さん宅に訪問し、震災後二日目からの避難所支援の取り組みとその後の活動のお話を伺った。赤間さん夫婦の人情ある行動に感動した。そして、自分はその時何ができたのか、今の自分に何ができるのかを考えさせられた。また、赤間さんの自宅の農家で作られているキュウリやトマト、とうもろこし、ブルーベリージャム、お茶をいただき、とても美味しかった。優しい心遣いに温かい気持ちになった。次に、旧大川小学校跡地を訪問した。到着してタクシーを降りた瞬間から突然頭が痛くなり、異様な雰囲気を感じた。崩れた校舎の様子に言葉を失い、胸が痛かった。何とも言えない気持ちになった。二度とこのようなことが起きてはならないと感じた。その後、亀山旅館に向かった。夕食前に、近くの海へみんな散歩にいった。空がピンク色に染まっていて、とても綺麗だった。雄勝の海の景色も最高によく、元気を貰えた。夕食の時間になり、メニューがすごく豪華で驚いた。雄勝町で有名なウニやホヤは新鮮ですごくおいしかった。特にウニは、お寿司屋さんで食べるウニとは違い、甘くて濃厚で美味しかった。その後、ゲストスピーカーの清水さんからの話を聞き、さらに色々学んだ。

<8月1日>

朝食を食べ、学習支援ボランティアの目的である雄勝中学校に向かった。初めに、駅伝練習を一緒にした。海を見渡しながら校庭を走るのは初めてで、素晴らしいものだった。自分の体力のなさを実感し、老いを感じた。生徒のみんなは暑い中、文句ひとつ言わずに走っていた。熱が入りすぎてしまったのか、体調を崩してしまった子もいたが、みんなの一生懸命な姿に自分も負けてはいられないと感じた。その後、学習指導をした。生徒の子たちになかなか上手く接することができず、接し方を悩んでいるうちに時間だけが過ぎていった。しかし、生徒の子たちが笑顔で話しかけてくれたので、こちらの緊張も少しずつとけていった。昼食を食べ、被災地講話視察・漁師の永沼さんから話を伺った。東日本大震災後の淑徳大学のボランティア活動についての講話を聞き、感動した。永沼さんが船を出してくれることになり、船に乗って雄勝の海を満喫した。海は太陽の光が反射してキラキラ光っていて、波の音や鳥が飛び交っていて自然をたくさん感じた。ずっとこのままでいたいと思うほど、最高の時間だった。夕食を食べ、夜にみんな海に散歩にいった。みんなで横になって空を見た。星がたくさん光っていて、流れ星もみることができた。そして、横になっているときに隣になった先輩とたくさんお話ができてうれしかった。旅館内では緊張して全く会話もできなかったのだが、外にでて自然に囲まれ波の音を聞き、そういった落ち着いた雰囲気だと緊張

も消え去った。雄勝の自然は、本当に素晴らしく落ち着く場所だなど、改めて感じた。

<8月2日>

朝食を食べ、昨日と同様、雄勝中学校に向かい、学習支援に参加した。この日は最終日ということもあり、内心すごく寂しい気持ちだった。しかし最後だからこそ、昨日よりも積極的に自分から話しかけて頑張ろうと思った。生徒からわからないところを質問されて、答えられるとすごく嬉しくて、勉強って楽しいなと感じた。それと同時に、相手にもっとわかりやすいように説明ができるように練習しようと感じた。

昨日よりも生徒の子たちとたくさん話ができ、教職課程をとっている私にとって、すごく勉強になる体験だった。

その後、雄勝中学校の生徒のみんなとお別れをした。その後、最後のみんなとの昼食で鉄火丼を食べた。やっぱり、雄勝の食材は新鮮で美味しいなと感じた。帰りのタクシーではみんな爆睡で疲れた様子だった。仙台駅に着き、新幹線にのって東京駅に向かい解散となった。

今回の学習支援ボランティアに参加して、貴重な体験をたくさんすることができて参加してよかったなと感じた。被災の現実と復興の現状を学び、雄勝中学校のみんなとの学習支援や、雄勝の自然の豊かさ、人情ある温かい人たちとの関わりのすべてが、私にとって最高の思い出となった。そして自分は3.11のあの日何をする事ができたのか、今何ができるのかを考えさせられる大きなきっかけにもなった。自然というものはすごく美しい反面、いつ何を起こすかわからない、予想をはるかに上回るようなことをしてくる。いつ何が起きるかわからないからこそ怖いのだが、だからこそ日々災害に備えなければならないし、二度とこういうことが起きてはならない。あの時何ができただのか、何がダメだったのか、積極的に私たちが学ぶ必要があると感じた。二泊三日という短い間だったのにも関わらず、こんなにも濃い体験ができたのだから、これを今後絶対に何かに生かしていきたい。



# 石巻での体験

総合福祉学部 社会福祉学科 1 学年 鈴木 亜美

## 1 日目

学習支援ボランティアの1日は予定より早まり新幹線の中も混んでいた。古川について1番最初に驚いたのは気温だ。てっきり、東北は涼しくて湿気も少ないと思っていたけれどそんなことはなかった。気温も高く湿気も含んでいて普段私たちが住んでいる場所よりも暑く感じた。

車での移動中に見える景色は市街地を抜けると綺麗な海が見えた。最初に赤間さんのご自宅でお話を聞くことになった。震災時にはどんな状況だったのかを細かく教えてくれた。赤間さんは農家を営んでいて震災後には避難所に200個ものおにぎりを送ったことで災害時などに農家の方がどれだけ力強いかわかった。はじめてのブルーベリー狩りでも採取方法や美味しい実の見分け方を丁寧に教えてくれた。

初対面の私たちにも明るく接して下さって素晴らしい出会いだったと感じた。

次に、旧大川小学校へ到着した時に空気がそこだけ違う感覚になった。津波の被害に遭い崩れた校舎を見て胸が痛くなった。改めて津波の怖さを身に染みた。

亀山旅館に着いた時は6時過ぎだった。旅館で新鮮なお料理を頂くと外は真っ暗闇で少し怖い。同じ日本なのに住んでいる場所でこんなにも違うんだと衝撃を受けた1日だった。

## 2 日目

この日は、雄勝中学校へ行き駅伝の練習の補助を行うことになった。気温も高く長時間走ってられないくらいで体調が悪い子たちもいた。けれど、走っている時に見える海はとても綺麗で気持ちよかった。

普段、小・中学生に触れ合う機会がないため「教える」ということを難しく感じた。

漁師の永沼さんのご自宅でご飯を頂くことになり、たくさんの海の幸をご馳走になった。船にも乗せてもらい海の広さやなにが収穫できるのかを学んだ。

1日目の夜に話を聞いた、清水麗さんとヤギのメリンダとお散歩をすることになった。車通りのない道を離して散歩している姿は自由に感じた。

徒歩で灯台へ向かう途中にも海は見えた。こんなに綺麗な海で高い防波堤によって見えなくなってしまうのは長年そこに住んできた人たちには酷だと感じた。対策だから仕方ないのは分かるけれど他に方法はないかと考えた。

宿に戻った頃には、1日歩き疲れてしまった。旅館で美味しい夜ご飯を食べた後みんなで海へ向かった。夜空には、星空が広がり雄勝の自然の美しさを知ることが出来た。

### 3日目

この日は、最初に勉強を教えることから始まった。2日目ということもありみんなも少しずつ慣れてきたように感じた。雄勝中学校の先生の授業は分かりやすく、全員が取り組んでいてこれが「教える」ということなんだと考えた。勉強を教えながらお互いのコミュニケーションを取ることでより親密になれた気がした。わかりやすく教えられた自信はないけれど、相手がうんとうなづいてくれたり反応を返してくれて嬉しい気持ちになった。

3日間ですごく貴重な体験をさせていただいた。最初は、はじめての場所で不安があったけれど一緒に参加した子たちは学年、学科はバラバラだったけど協力し合うことができた。改めて人との繋がりというもの大切さを知ることができた。

震災の出来事は、風化させてはならない。そのことをこれからの人たちに伝えなくてはならないという使命を感じた。私たちがいかに危機感が足りないか、対策が取れてないかを知ることができた。今の私たちに何ができるかが今後の課題だ。

今後、このような機会があればまた参加したいと思います。2泊3日という短い間だったけれど雄勝の自然の魅力を感じました。このことを今後の人生に生かしていきたいです。素敵な思い出になりました。ありがとうございました。



## 充実した3日間

社会福祉学部 社会福祉学科 1年 高阪 葵

今回参加させていただいた学習支援ボランティアはとても濃い2泊3日だった。最初は、人がとても少なく、少し寂しい感じがした。しかし、雄勝町の方の思いやりの心がとても嬉しかった。

今回学習支援ボランティアに参加した理由は、8年前の東日本大震災についてもっと知りたいと思ったから。実際に、どのような取り組みをしてきたのかということを知りたいと思ったからだ。当時、新聞やニュースで報じられていたことについて興味を持っていたため1度、被災地に行ってみたいと思った。

被災地視察は、はじめての被災地視察で、震災当時の今まで知らなかった話を多くの方から、たくさん聞くことができた。そのとき、当時の自分の事も思い出せ自分に余裕がなかったことを思い出した。そこで、周りの人と協力することの大切さを知り、自分のできることをやりたいという気持ちになった。そのあとに、ブルーベリー狩りを体験させていただいた。初めての体験で、とても楽しかった。また、旧大川小学校に行った。震災当時のまま、校舎が残っていた。今の光景と震災前の写真をみたとき、震災の恐ろしさを実感した。崖崩れが起こった後のような様子もあった。今回、そのような状況を見ることは自分のなかで、大きかった。2日目には、船に乗せてもらい海のいろいろなところを見させてもらった。とても綺麗だった。震災時の海の様子が嘘のように思えた。被災地視察の移動中海沿いをタクシーで通った。そこには、震災を受け現地には防波堤が造られていて、そこから海を見ることはできなかった。震災前は海が綺麗に見えたということを知り、震災の影響でいろいろなことが変わっていることを実感しました。

雄勝中学校では中学生と触れ合う機会があまり多くなく、何事にも一生懸命に取り組み、全員で声をかけ合っている姿に刺激を受けた。コミュニケーションを取りながら、学習支援をしているとき、楽しそうに笑っている姿、嬉しそうにしている姿をみて元気もらった。また、雄勝中学校のグラウンドからの景色はとても綺麗だった。グラウンドで行った、駅伝大会の練習に参加させていただいた。その景色を見ながら走れたことは楽しかった。2日目には更に、仲良くなり、帰るのが名残惜しく感じた。

1日目の夜、ゲストスピーカーの方に来ていただき、講話をきいた。そのとき、とても感銘を受けた。考え方や物事の見方、人と人との関係性を聞き雄勝町のすばらしさに気づいた。普段の生活もある中、雄勝町にそれは、2日目も同じだった。2日目はヤギと散歩した。1番驚いたのは地域の方とヤギが話していたことだ。1日目に教えていただいた、「動物にも考えていることがある。」「動物にも理解できる力がある。」この言葉の意味が目に見えて理解できた。そして、地域の人全員が、その考えを持っているのだと気づいた。

そのあとに、白神神社に向かった。行く途中、地域の方から声をかけていただき改装中のホテルから景色を見ることができた。本当に綺麗だった。最初、その予定はなかった。地元

の方のご厚意で実現できたことだ。地域の方同士の良い交流関係がないとできないことだ。素晴らしい地域だと思った。

また、2日目には、海の近くまで行き夕日の空を見ることができた。夜には、星を見に行った。どちらもとても綺麗だった。オレンジ色に染まった空は、幻想的な景色だった。夜空の中で光る星は、今まで見た星の中で、1番綺麗だった。流れ星を幾つも見ることができた。2日間の疲れを忘れるくらい、良い時間を過ごすことができた。

今回、宿泊させていただいた、亀山旅館さんのご飯や被災地視察で訪問させていただいた方々のお料理がとても美味しくて、印象に残っている。雄勝町だからこそ食べることができものが、多くあった。1日の始まりと終わりに食べる食事が美味しいからこそ、3日間楽しく過ごすことができた。雄勝町の海でとれた新鮮な、海の幸を食べることができたのは良い経験だった。

今回の学習支援ボランティアに参加して多くの事を学ぶことができた。地域の方や現地環境から今まで知らない事ばかり教えていただいた。静かな場所だったからこそ感じる事ができたと思う。楽しく、充実した2泊3日を過ごすことができた。このボランティアに参加してよかったと思う。思っていた以上のものを吸収でき、楽しく過ごすことができた。この3日間で、雄勝町の方々のやさしさに触れ、あたたかく迎えていただき、自分にとって貴重な経験ばかりだった。この学習ボランティアで得た事を今後の生活に活かし、こんな貴重な経験をさせていただいたことに感謝したい。また機会があったら、参加したい。また、現地の現状について考え、今後につながるよう協力していきたい。



雄勝町の海



亀山旅館さんでの食事



ブルーベリー狩り



雄勝中学校の駅伝練習

## 石巻での三日間

総合福祉学部 教育福祉学科 4年 土屋 美緒

今回、学習支援ボランティアに参加をし、想像以上に多くの方との出会い・多くの学びを得られたと感じる。特に、雄勝中学校での中学生の皆さんと関わっていく中での学びは多くあった。また、雄勝町に訪れることができ、被災地の現実と復興の現状を自分の目で見て、感じ、確認することができたと思う。

今回の活動の目的として、「被災地の現実と復興の現状を自分の目で見て感じる」こと「被災地での学習ボランティアを通して、子どもたちとの関わり方を学び、新しい経験を積む」という二点を意識し活動を行なった。震災後、被災地の情報は、全てメディアから流れてくるものであり、メディアでは流れない、流れてこないことを、実際に足を運び自分自身が意識し、行動することが必要だと感じたからである。

雄勝中学校での学習支援ボランティアでは、学習支援や駅伝補助を行なった。実際に子どもたちが夏休みの宿題に取り組んでいるところに私たちが寄り添い、子どもから「わからない」や「これはどうですか?」という質問に答えた。初めは、子どもたちが黙々と宿題に集中して取り組んでいたために、話し掛けるタイミングも難しく、沈黙の時間が続いたことを鮮明に覚えている。どのようにして、子どもたちと学習を通して関わっていけば良いのだろうと悩んだ。そこで、休憩の時間を活用し、コミュニケーションを図ろうと考えた。子どもたちに少しずつ話を振ることで、心を開いてくれていることを実感することができ、わからない問題を質問してくれるようになり、ホッとした。子どもたちの「わからない」を「わかった」に変えることは簡単なことではなかったが、コツを掴んでくれたり、一緒に考え悩むことにより、距離が近くなったように思う。勉強の終わりの時間になり、帰ることを伝えると、数時間しか一緒に過ごしていないにも関わらず、「え〜〜」と悲しそうにしていた子どもの表情が忘れられず、心に響くものがあった。子どもたちにとっても、私たちにとっても、大切なことは一緒にいた時間ではなく、思い出なのだと思えた。

亀山旅館では、石巻市で取れた、新鮮な食材を食べることができ、自然の素晴らしさを感じた。また、旅館から皆んなで歩き、海に行き、素敵な夕焼けをバックに写真を撮ったり、夜空を見上げ星を眺めたりと、普段は中々出来ない経験をする事ができた。自然に触れ合うことで、心が落ち着き、穏やかな気持ちにさせてくれるなど感じた。防波堤が作られ、雄勝の素敵な海の景色が壊れてしまうのは、数日間しか滞在していなかった私でも、悲しいなと思った。現地の方と同じような立場に立って、雄勝の景色や海について深く考えさせられた三日間であった。

震災地の視察では、旧大川小学校跡地を訪問した。私がもし、震災当日に教師としてここにいたら、どうしていたんだろう、何ができたのだろうという気持ちであった。想像をはるかに超えた津波が目の前に押し寄せてきた時のことを考えると胸が苦しくなった。校舎の破損状態を見ると、津波の勢いが伝わってきた。農家の赤間邸では、震災当日のことや、震災後のお話を伺うことができた。赤間さんの言っていた「命より大事なものはない」「大事なものは絶対離しちゃいけない」という言葉が胸に刺さった。いつもは、当たり前のように、ご飯を食べて、お風呂に入って、寝る事ができるが、それも当たり前じゃないことを改めて実感することができた。そして、家族や友人をこれからも大切に感謝をしながら生きていかなければいけない。

今回の学習支援ボランティアを通して、自分の足で現場に行き、見て感じることの大切さを強く感じた。ボランティアというと、何かをしにいくというイメージになってしまうが、スコップを持つことだけがボランティアではなく、被災した方々のお話を聞くだけでも、ボランティアであり、被災された方々の気持ちに寄り添うことができるのだと学んだ。雄勝中学校のグラウンドからは、綺麗な海が見え、こんなところで体育ができるのは幸せだなと思った。また、先生方も、熱心であり、一生懸命に子どもたちと向き合い、命令や指示というよりは、一緒になって取り組むといった、同じ立場で子どもに接していた。そんな姿を見て、素敵だなと思った。石巻市で会った方々は皆温かくて、自然も豊かで、石巻市が好きになった。経験したことをこれからの教育実習や子どもたちとの関わりで生かしていきたい。

## 2019 年学習支援ボランティア報告書

総合福祉学部 教育福祉学科 4年 吉川 愛夢

前回の二月に訪れてから二度目の東北への訪問であった。前回、スタディーツアーが終了した際、機会があれば是非もう一度訪問してみたいと思った。理由として、人々の温かさが一番にあげられるであろう。出会った人々が悲しみを抱えながらともに生き乗り越える、そして繋ぐことの大切さを肌で感じる事ができた冬だった。

前回とは違い、夏の東北への訪問、気候は猛暑であった。前回もお邪魔をし、野菜やお米、お茶をいただいた赤間さんの家に今回も足を運ぶことができた。震災の時の様子や、支援活動の内容、支援方法、被害の大きさなどを今回は奥様であるゆうこさんから違う形でお話を伺った。言葉を掛け合いながら過ごすという温かい話がある反面、近所の一角が死体の置き場になっていることなど信じがたいお話も中にはあった。実際に同じ日本で起きている現実と結びつけることが難しかった。しかし今回のボランティアに参加していなければ知らなかった事実を知ることができ、学びとなった。また、多くの作物を育てている中で、ブルーベリー狩りをさせてもらった。熟している実の見分け方などを教えてもらい、初めての経験でとても楽しかった。

一日目の夜に清水さんからお話を伺った。大学の教授をされながら、東北でプロジェクトを立ち上げ、どちらの仕事もこなす多忙な生活を送っていた。プロジェクトの内容としては、震災が起きた際、一人でも生きていくことのできる力を身に付けさせる、また子供の本来の能力を引き出すことであった。今の子供たちは以前に比べ、外での活動が減少しているように感じる。遊ぶことの大切さを、清水さんは自ら子供たちに教えているようであった。震災は、目に見えるものと目には見ることの出来ない心に大きな被害を及ぼす。しかし、その後、生死を分けるのは、生きる術を身に付けているかどうかだと考える。災害の時こそ、強く生きていくことができるようにするために、普段の心得がいかに大事であるかを教わった。さらに、清水さんはヤギを飼っており、ヤギのお世話にも一生懸命されていた。ヤギの気持ちになり、ヤギの思うように人間がサポートするというお話は世界は人間中心に回っていないことを教わった。私たち学生も散歩やえさをあげ一緒に時間を楽しんだ。

二日目、三日目は雄勝中に行き、中学生と交流をした。まずはじめに学校の立地に驚いた。海と山を見ることのできる大自然の中にあり、とても良い環境であると思った。その中で、生徒と一緒に走り、駅伝大会にむけて一緒に走った。猛暑であったので、熱中症などで体調を悪くしてしまう生徒もいた。走る生徒に声をかける応援の生徒や休憩時には氷を持ってきたり仲間の絆が深いこと、仲の良さなどが伝わった。駅伝の後は、夏休みの課題を見守る活動であった。分からない部分の質問に答えながら進めていく時間であり、生徒と一緒に勉強することが出来た。ひと学年10人に満たない学校であるがその分皆が仲良く家族のようだった。駅伝や学習の時間を共にし、一人ひとりの頑張りであったり、悲しみを乗り越えた強さを感じ取ることができた。とても元気な雄勝中の皆とまた会いたい。先生方にも貴重

なお時間を頂き感謝している。

前回もお会いした永沼さんに今回もお会いすることができた。漁師の一日の流れを聞き、実際に船に乗せて頂き、漁師という職業に触れることができた。獲れたての雲丹やワカメを頂き、とても柔らかく普段口にする雲丹やワカメとの違いに驚いた。普段、何気なく口に出しているものに沢山の方々が携わっていることに改めて気が付くことができ、感謝しなければならなかった。

今回の学習支援ボランティアで改めて、東日本大震災の被害の大きさと何人もの尊い命が奪われた現実に直面し心が痛んだ。8年たった今でも普及が進んでいない、或いは普及活動で多くの方々が東北に足を運んでいる。自然災害の恐ろしさを知るとともに、普段から、最悪の事態を想定しておく必要があることに気づくことができた。防災リュックや避難場所の確認など、日頃から確認し自分の命を守る術を考えておかなければならない。大川小学校では後ろに山がありながら教員をはじめ幼児、児童が多く亡くなった。常に最悪の事態を考えること、集団になり安心しないなど、東日本大震災から学ばなければならぬ。前回と同様に今回も出会った方々が皆温かくまた東北に行きたいと思う出会いであった。苦しみを乗り越え、共に生きる、そして次の世代に語り継ぐことは簡単にできることではないと思う。今年で大学は卒業するが、また何か機会があれば様々な形で関わってゆきたい。引率してくださった先生方、共に参加した学生のお力をお借りし三日間という短い時間であったが充実した時間を過ごすことができた。まだ足を運んだことのない周りの人たちに今回の学んだ事柄を伝えてゆきたい。

## 学習支援ボランティア

人文学部 表現学科 1年 浅井 しおり

私は、今回の学習支援ボランティアのキーワードは“人と人との関わり合い”だと思います。

私は、東北に1度も行ったことがなく、震災から8年経った被災地の現状を全く知りませんでした。ですが、来年東京でオリンピックが催されるにあたって、日本人として震災のことについても知っておかなければならないと思い参加しました。

一日目にお邪魔したブルーベリー農家の赤間さんには、本当にたくさんの貴重なお話を聞くことができました。また、ボランティアに参加したみんなの想いを聞くこともできて、かけがえのない体験となりました。その中でも印象的だったのが「生き残ることが一番」というお話です。生きてさえいればいい。このシンプルな言葉が震災という想像



もし切れない惨事を実際に経験した方の言葉として胸に深く突き刺さりました。赤間さん自身も生き残った者として何ができるかを悩みぬいて、私たちのような何も知らない人々に伝え続けることで、亡くなった方たちの無念な想いを晴らそうとしているという、想いを知り私自身も非常に胸が熱くなりました。また、日本人の順番を守るという道徳心が被災して大変な時でも働いて、ガソリンスタンドや品薄状態のスーパーマーケット、更には逃げる時まで律義に並んでおり、そのせいで本来であれば助かっていたような人までも被害にあってしまったというお話を聞いた時、同じ日本人として何を一番大切にするべきかわからなくなりそうで、とても複雑な気分でした。千葉県でも、蘇我駅のあたりで綺麗な夕日が見えると思ったら地震によるJFEの石油の爆発だったという話を聞いて、みんな震災をひしひしと経験していたことを再確認してすごく複雑な気持ちになりました。

しかし赤間さんの涙を見てやはり、どんな優しさや思いよりも自らが生き抜くということが一番に大切にするべきだと感じました。

一日目の午後に伺った旧大川小学校は、事前に実際の被害状況などを聞いていましたが、実際に行ってみると言葉にできない雰囲気にもまれてしまいました。見学中には、震災の前から流れていたであろう5時のチャイムが鳴り響き、たくさんの子供たちがここで日常を過ごしていたのだと感じられました。





学習支援で行った雄勝中学校では、真っ直ぐで素直で、生徒だけで無く先生との距離も近く、下の名前と呼んでいる点に非常に絆を感じた。家族構成の話になり「昔はお兄ちゃんが居た」と聞いてやはり震災の跡は残っていると感じた。また、駅伝練習では、若いことがいかに尊いことかと実感させられました。



移動中のバスの中から見える景色は、決して“被災地”では無く、それどころか真新しいコンクリートや高い堤防ばかりが目映った。人を津波から守る為と分かっている、やはりなんだか寂しい景観になってしまったと感じた。2011年3月11日のあの瞬間までは綺麗な海を見渡せたであろう場所が今は辺り一面堤防で囲まれてしまった姿に、この様なところにまで震災の影響を受けているのかと実感した。またあの景色では、地元の住民の方々も精神的にも閉鎖的な気分になってしまうのでは無いかと心配になり、海がもう一度見渡せる地になるにはどうすれば良いのだろうか深く考えさせられた。

私はこのボランティアに行くまで、東日本大地震の被害は福島が一番大きいと考えていました。ですが、実際は各地それぞれに甚大な被害が出ており、現地で直接目にしなければならぬと感じた。東日本大地震から8年だった今でも、2011年3月11日14時45分ま

での姿に完全に戻っているわけでは無い。確かに、テレビで見ていた当時の“被災地”とは程遠い、綺麗なコンクリートの地面と出来立ての防波堤が私の目には写っていた。だが、内面的な部分ではどうなのだろうか。人々の心は、建物や環境の復活より時間を有するのではないかと私は感じている。

今回、お話をしてくださった方々は震災という経験を踏まえて、紆余曲折



という言葉じゃ繕いきれない日々を過ごし、前を向いて震災について発信して行こうと考えている方々なのではないかと感じた。そんな方達でも、やはり震災に対しての無惨な悲しみなどは未だ拭き切れることは出来ずにいるのではないかと感じた。悲しみを拭き切る事は出来なくても、減らしていく事は出来るのではないかと考える。

直接的な被災者ではない私達にとってまず最初に出来る事は、「知る」ということではないだろうか。そうして現地の人々と関わりを持っていくことによって、より現地のことが知りたくなり、現地に貢献していきたいと思うようになると思います。そして、改めて、自分に何が出来るか考えていくべきだと考えてます。

私は、今回の雄勝での学習支援ボランティアを通して東北や地方地域に対する興味関心が高まった為、プライベートでも旅行や観光でも行ってみたいなと思いました。また、支援できることがあるならばこれからも参加し、東北が2011年3月11日以前よりも明るく穏やかな街になるように貢献していきたいです。

淑徳大学 東日本大震災復興支援プログラム

## 第10回 パネルシアターキャラバン

※新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により中止

**淑徳大学 震災ボランティア**  
**～パネルシアター キャラバン(10)～**  
**2020. 3. 10(火)～13(金)**



**実施要項(しおり)**

**◆目的**

東日本大震災の発生から9年が経とうとしています。被災地の復興が進む中、3.11を風化させない「できることを。いま。ここから」をスローガンに、淑徳大学地域支援ボランティアセンターは宮城県を中心に活動を継続しています。

淑徳発祥の「パネルシアター」を担いで、被災地の保育所や高齢者施設の巡回を毎年行っています。パネルシアターを通して多くの笑顔が花開くように広がることを願いながら続けています。今年も、朝日新聞厚生文化事業団の助成もいただき、宮城県の山元町だけではなく、2019年10月の令和元年台風第19号(令和元年東日本台風)で甚大な被害を被った宮城県丸森町にも足を延ばします。自分たちの上演するパネルシアターで子どもたちをはじめ、被災地の大人の方々とも貴重な交流をしましょう。10回目の取り組みとなります。

※朝日新聞厚生文化事業団の助成金対象の事業です。

項目	概要	備考
実施期間	2020年3月10日(火)～13日(金) 3泊4日	
訪問先	宮城県山元町・丸森町(保育園・学童クラブなど)、 宮城県山元町東日本大震災追悼式	
参加学生	淑徳大学(千葉・東京・埼玉キャンパス)の学生 参加者 8名 千葉キャンパス 1名 東京キャンパス 2名 埼玉キャンパス 5名	
指導・引率者	淑徳大学教育学部 藤田佳子准教授、中島章夫氏	
主催	淑徳大学地域支援ボランティアセンター	

**実施行程表(3月10日～13日)**

日程	主な活動内容(変更する場合があります)
3/10 (火)	07:50 蘇我駅 淑徳大学バス停 出発(千葉出発組) ◆河原美波、古賀慎一郎、中島さん
	08:55 池袋サンシャイン(東池袋中央公園) 出発(池袋出発組) ◆並木藍、石井優斗、岩出旬平、奈良雅哉、澤本有咲、浅井しおり ◆藤田
	15:00～16:30 山元町「防災拠点・山下地域交流センター」 岩佐勝センター長のもと 視察・防災学習
	17:00 丸森町の宿泊所 到着(夕食・入浴) : 国民宿舎あぶくま荘
	19:30～23:00 打ち合わせ・リハーサル

3/11 (水)	08:10	宿泊所 出発
	08:40	国立病院機構 宮城病院院内保育園「つくし保育所」到着・準備
	09:00～10:00	パネルシアター公演・交流 (子ども： 名、保育者 名)
	10:20	「つくし保育園」出発
	10:40	「防災拠点・坂元地域交流センター」到着・準備
	11:00～12:00	「夢ふうせん」(子育て支援)でパネルシアター公演・交流 (親子： 名)
	12:00～14:00	昼食・視察 (または、いちご狩り)
	14:00～15:30	「山元町東日本大震災慰霊碑建立地 (旧 JR 山下駅跡地)」にて 東日本大震災追悼式に参列 ※14:00 開場、14:45 開式 (黙とう・町長式辞・献花)
	15:40	追悼式会場 出発
	16:20	あぶくま荘 到着
16:45～18:00	ミーティング	
18:00	夕食・入浴 自由時間	
3/12 (木)	08:30	宿泊所 出発
	09:00	丸森ひまわりこども園 到着 (172名)
	09:00～	パネルシアター公演・交流 3歳未満児クラス 20分 3歳児クラス 20分 4歳児クラス 30分
	11:30～12:30	給食 (子どもたちと一緒に) 385円×11名
	13:00～13:45	5歳児クラス 40分 (70名)
	14:30	丸森ひまわりこども園 出発
	14:45	丸森地区放課後児童クラブ 丸森にこにこクラブ (60名) 到着 ☆丸森小学校児童
	15:00～16:00	丸森にこにこクラブ パネル公演・交流
	16:15	丸森にこにこクラブ 出発
	16:40	あぶくま荘 到着
	17:00～18:00	ミーティング
	18:00	夕食・入浴 自由時間
3/13 (金)	08:30	宿泊所 出発
	10:30～12:15	石巻市視察 (日和山公園、資料館、語り部等)
	12:15	石巻市 出発 ～東北自動車道を通って東京へ～
	18:00	池袋サンシャイン 到着・解散
	19:30	蘇我駅 到着・解散

## 事前研修

### 第1回目：2月2日(日) 10時00分～17時30分

- 場所：東京キャンパス 5号館5-2教室  
内容：参加者顔合わせ、ボランティア活動の心構えを学ぶ、  
現地での活動プログラムについて（パネルシアタープログラム作品決め・練習等）

### 第2回目：2月20日(木) 15時00分～17時30分

- 場所：埼玉キャンパス 1号館307教室  
内容：参加者顔合わせ（河原さん、中島さん）、訪問先の詳細入り行程表の説明  
丸森町の現状などの学習  
現地での活動プログラム（練習等）  
アートバルーンの試作、ユニホームの貸し出し、新しい幟デザイン など

## 参加費用について

- 天災ボランティア保険代 500円前後(必ず加入) ⇒ 3月10日に徴収  
●参加費については無料。朝日新聞厚生文化事業団の助成金にて交通費の一部と宿泊費の補助あり。  
(注)集合場所および解散場所までの交通費・昼食代は自己負担。

## 持ち物について

### <パネルシアター関係>

#### ◆分担した持ち物

- パネルシアター上演作品・道具など  
並木藍：バナナの親子・野菜果物大好き・カレーライス・ひよこちゃん  
石井優斗：そっくりさん・花火・アゴゴブロック  
岩出旬平：いっぴきのかえる・トトロ・スピーカー  
古賀慎一郎：大きな大根・ホールニューワールド・しおりちゃんのユニホーム  
奈良雅哉：BBQ・マイク①  
河原美波：マイク①  
藤田佳子：オープニング・たこ焼き・おしゃれひつじ・リズム de クイズ・ビリーブ・こぶたぬきつねこ・サウンドシェイプ・マイク②・デジタルカメラ・ブラックライト・手土産・ミニライト

- 部活動で使用している携帯マイク(PITAPETA サークル1台、でんでん虫1台、藤田マイク2台)⇒合計4台

#### ◆送付する物

- ★以下のものは、藤田研究室のものを国民宿舎あぶくま荘に送付します。  
パネルシアター舞台1式(イーゼル・白黒パネル板 各1枚ずつ)、下幕、目玉クリップ  
延長コード、布ガムテープ、養生テープ、パネルキャラバンの幟とポール、バルーン、ポンプ、ビニール袋

## ◆各自の持ち物

- 上履き
- ユニホーム(PITAPETA)1枚
- 着替え
- 動きやすい靴
- 洗面具類
- お金(集合場所までの交通費、現地での朝食夕食以外の飲食代は各自の負担になります)
- 携帯電話
- 常備薬など
- 保険証(またはコピー)



## <パネルシアターキャラバン 訪問先などの 関係施設所在地>

	施設名	所長・代表者	住所	電話
1	宮城病院院内保育園 「つくし保育園」		山元町高瀬字合戦原 100 番地	0223-33-8515
2	夢ふうせん	栗和田秀子	(公演会場)坂元地域交流センター	
3	山元町防災拠点・坂元地域 交流センター (ふるさとおもだか館)		宮城県亶理郡山元町坂元字町 東 1 番地 60	0223-38-0301
4	山元町防災拠点・山下地域 交流センター (つばめの杜ひだまりホ ール)	岩佐勝 センター長	宮城県亶理郡山元町つばめの 杜一丁目8番地	0223-37-5592
5	丸森ひまわりこども園	佐藤園長	宮城県伊具郡丸森町館矢間館 山字玉川 136 番1	0224-87-6466
6	丸森地区放課後児童クラブ		丸森町字菱川内39-1 (丸森小学校内)	0224-72-2922
7	丸森町役場 子育て推進課	シキチ氏	丸森町字鳥屋120	
8	国民宿舍あぶくま荘		丸森町字不動55-1	0224-72-2105
9	岩佐 勝先生			
10	山元町東日本大震災慰霊 碑建立地 (旧 JR 山下駅跡地)		亶理郡山元町山寺字頭無 125 番地 6	
11	イチゴワールド	(2,000 円)	山元町山寺字桜堤47番地	WEB 予約
	やまもと夢いちごの郷		坂元駅の近く (津波のハーレー展示あり)	
12	日和山公園		石巻市	
13	資料館		石巻市	
14	語り部			
	門脇小学校			

## 参加者

	名前	性	学年	所属	携帯電話
1	並木 藍 (なみき あい)	女	3年	教育学部こども教育学科	
2	河原 美波 (かわはら みなみ)	女	3年	総合福祉学部教育福祉学	
3	石井 優斗 (いしい まさと)	男	2年	教育学部こども教育学科	
4	岩出 旬平 (いわで じゅんぺい)	男	2年	教育学部こども教育学科	
5	古賀 慎一郎 (こが しんいちろう)	男	2年	教育学部こども教育学科	
6	奈良 雅哉 (なら まさや)	男	2年	教育学部こども教育学科	
7	澤本 有咲 (さわもと ありさ)	女	2年	人文学部表現学科	
8	浅井 しおり (あさい しおり)	女	1年	人文学部表現学科	

引率教職員：淑徳大学 教育学部准教授 藤田 佳子(ふじた よしこ)  
埼玉キャンパス 中島 章夫(なかじま あきお)

## ☆パネルシアター公演 基本プログラム☆(案) 40～45分

### 事後研修 日程は未定

場所：埼玉キャンパス

内容：報告会(報告書のまとめ)(ポロシャツ返却)

2000字前後の報告レポートを藤田にWEB提出。(写真も入れてください。A4サイズ2枚)

報告書締切日: 3月29日(日)

淑徳大学 東日本大震災復興支援プログラム

## 第 7 回 スタディーツアー

## ◆スタディーツアーの目的

本学では「できることを、いま・ここから」をスローガンに、東日本大震災の復興支援活動を続けています。このツアーは、3.11を風化させることのないよう現地に赴き、被災された方々のお話を直接伺って交流することにより、「いまできることは何か」を考え支援につなげていくことを目的としています。今年度は福島県相馬市・浪江町地域にて、震災・津波被害ならびに原発事故被害からの復興支援について考えます。

## ◆スケジュール

日 程	主 な 活 動 内 容 (変更する場合があります)
2/12 (水)	08:20 東京駅集合 (新幹線東北・上越・北陸新幹線南のりかえ口) 08:48 東京駅出発 (やまびこ 43号) 10:21 福島駅到着 ~マイクロバス~車中オリエンテーション 11:50 亀谷旅館 (昼食) 12:45 慰霊碑/鎮魂祈念館 (語り部:五十嵐様) 13:35 相馬港湾建設事務所(案内:事務所課長小川様) 14:45 和田観光苺組合 いちご狩り体験 15:15 消防団慰霊碑 相馬市防災備蓄倉庫 見学 15:55 磯部メガソーラー (車窓) 16:00 松川浦大橋 大洲海岸・夕顔観音堂 見学 17:00 旅館 いちぼう (福島県相馬市尾浜字高塚) 到着 (夕食 18:00・夕食後振り返り)
2/13 (木)	06:30 起床 07:30 朝食 09:00 旅館いちぼう 出発 10:00 南相馬市小高生涯学習センター所長 安部克巳さん講話と小高市視察 12:00 南相馬市内にて昼食 13:30 いこいの村なみえ着・休憩 14:00 浪江町~富岡町の避難指示解除区域を視察研修 (一般社団法人 AFW 代表理事 (元東電職員) 吉川彰浩さん) 17:00 いこいの村なみえ 到着 18:00 卒業生笹田さん:講話とグループワーク (夕食後・交流会)
2/14 (金)	06:00 起床 07:00 朝食 08:00 いこいの村なみえ 出発 (途中 薄磯地区 防潮堤見学) 10:00 アクアマリンふくしま着・見学 11:30 いわき・ら・ら・みゅうにて研修・昼食・買い物 14:29 常磐線泉駅出発 (JR特急ひたち 18号・品川行) 16:45 東京駅解散

## ◆宿泊先

①2/12：旅館いちぼう

〒976-0022 福島県相馬市尾浜字高塚 208-10 TEL:0244-38-8372

②2/13：福島いこいの村なみえ

〒979-1525 福島県双葉郡浪江町大字高瀬字丈六 10TEL0240-34-6161

## ◆持ち物

- ・宿泊に必要な物（寝巻・洗面用具・バスタオル・常備薬等）、温かい服装（防寒対策）、カイロ等（必要であれば）※宿泊先には、浴衣やタオル・歯ブラシなどアメニティーがない場合があります。
- ・本しおり、ノート、筆記用具、保険証コピー、飲み物代、自宅から JR 東京都区間までの交通費他各自負担を含むお小遣い。

## ◆参加学生 7名

1	千葉キャンパス	B81020	社会福祉学科	2	中村 友哉	男
2	千葉キャンパス	B81056	社会福祉学科	2	傍士 千智	女
3	千葉キャンパス	B81065	社会福祉学科	2	島田 夏海	女
4	千葉キャンパス	B8C066	コミュニティ政策学科	2	西澤 歩	女
5	千葉キャンパス	B9C060	コミュニティ政策学科	1	手崎 亮佑	男
6	東京キャンパス	R18002	歴史学科	2	穴澤 拓実	男

## ◆引率者 3名

1. 教育福祉学科 教員 小林 秀樹
2. こども学科 教員 山田 修平
3. 千葉キャンパス 職員 成田 真美

## ◆外部職員 1名

1. 敬愛大学 地域連携センター室長 藤森 孝幸

## ◆参加費について

- ・参加費：15,000円（ツアー当日に徴収します。）
- ・参加費の中には、往復の交通費（自宅から JR 東京都区間までは各自負担）、宿泊費および現地滞在中の食事を含む。※最終日の昼食は自由行動のため、各自にて負担となります。

## ◆事前課題

福島県相馬市・浪江町地域の震災・津波被害ならびに原発事故被害について、事前にインターネット等で調べて、どのような被害だったか把握しまとめてください。また、現地の方が被害状況・復興について説明していただけるので、質問事項をリストアップしてください。

## ◆終了後の課題（事後学習）について

1. 事前学習内容、体験、感想をレポートまとめて、メールにて提出してください。
2. 提出形式：2000文字以上 A4 サイズ 2枚程度 wordにて作成（写真張り付け可）
3. 表題（自由につけて構いません）・学籍番号・学部・学科 学年 氏名を記載して、提出。
4. 提出期日：2月28日（金）厳守
5. 提出先：淑徳大学 地域支援ボランティアセンター担当 成田  
（レポートは一部抜粋を本学 HP 掲載と、淑徳大学 地域支援ボランティアセンター活動報告書に掲載します。）

以上

## スタディーツアーを経験して思ったこと

総合福祉学部 社会福祉学科 2年 中村 友哉

今回のスタディーツアーで私は、語り継ぐこと、復興の意味、命を守ることについて考えるようになりました。

語り継ぐことは、このスタディーツアーで話をしてくださった人たち、特に五十嵐さんと吉川さんの話を聞いている時と、藤森先生が言っていた、「話を聞いた私たちは、この話を聞けない人たちに語り継ぐ責務がある。」「私たちも語り部になる」という言葉から考えられました。

今回話を聞いて、東日本大震災の恐ろしさ、復旧の様子、原発事故の当時の様子やそこから立ち上がっていく様子など、色々なことを教えていただきました。正直言葉にするのもとてもつらい内容が多かったと思います。五十嵐さんは、時折涙を流しながら、それでも語ってくれました。吉川さんも、原発の職員という立場と、双葉市民という複雑な立場に立ち、話をしてくれました。他の方たちも、奮闘の中話をしていただきました。

帰り際に五十嵐さんが山田先生に、高台に住居を移したまわりの住民の中でも、震災に対する意識が薄れ、風化してきていると話していました。当事者であっても、風化してしまう現状を知り、何とも言い難い思いになりました。だからせめて自分は頑張るとも五十嵐さんは言っていました。その思いに報いるためにも、語り部になって、ここで聞いた話を周りにも話して、風化しないようにしなければならぬと思いました。しかし、実際やってみるところ、あまり話の内容がまとまってなかったり、話すとき頭が回らずほとんど伝えることができなったりと、あまり伝えることができませんでした。正直なところ、まだどう言語化すればいいかわかっていないことが多く、伝えきれないことが多いです。伝えられず、言語化できない間に、自分の中でも少しずつ風化していくのが怖いです。そうならないように、スタディーツアー中に紹介してくださった関連書籍を読んだりして、スタディーツアーが終わった後も関わり続けることで、忘れないように、忘れても補い合えるようにします。五十嵐さんが言っていた「人は忘れる生き物だけど、忘れちゃいけないこともあって、その区別をつけることが重要」を実行できるように行動していきます。

復興の意味については、復旧、復興と一言でいうものの、それは何なのか、どういう状況のことを言うのかについて考えました。

建物は直っているものの、人が戻ってくるかどうかの問題が残っている現状を知りました。

吉川さんとの話で、去年だるまの目は復興したら書くという話を伺ったのですが、今回あまり考えずに「達磨の目が入るのはまだ遠いんですかね」と聞いてしまいました。すると吉川さんは、「どういう風になったら目を入れていいんだらうね」と逆に聞かれ、戸惑ってし

まいりました。今考えても、正直どうなれば復興といえるのだろうと思いました。考えてみても、正直まだわからずにいます。

命を守るということは、今回特に思ったことでした。五十嵐さんの話を聞いて、正直終始ぞっとしていました。地震があったときのこと、夫や叔父が目の前で津波に流されたこと、五十嵐さん自身も津波に巻き込まれたこと、そこから五十嵐さんだけたまたま、ぎりぎりのところで助かったこと、自分だけ生き残ってしまったことの苦しさ、どれも衝撃を受けっぱなしでした。つらいとも、怖いともとれるけれど、その言葉じゃ足りないような、そんな衝撃を受けました。五十嵐さんは、「自分の命は自分で守る」「逃げたら戻らない」「みんなで話す」ということを言っていました。安部克己さんも、「自助共助」自分の命は自分で助ける、それでも無理なら隣人や市に頼る、役所はすぐに助けに来られないと言っていました。いわきの東日本大震災展でも、「防災の基本は自分の命は自分で守る。自分の家族は自分たちで守る。自分の地域はみんなで守る」など、災害の時は、自分の力で何とかすることを考えなければならないことを学ばせてもらいました。じゃあどう守るかというと、五十嵐さんも言っていた「みんなで話す」ことだと思います。ここで聞いた話や、災害についてみんなで話し、危機意識をもって、いざという時どうするべきかを確認し合うことが重要だと、当たり前のことかもしれませんが、実感しました。

防災備蓄倉庫を見て、備えることの大切さも学べたと思いました。市がどういう備えをしているのか、前回のスタディーツアーでも学んではいましたが、今回、あそこまで備蓄が整えられていることに驚きました。自分の住んでいる市ではどのような対策がされているのかと調べるようになりました。それだけでなく、助け合いの精神が素晴らしいと思いました。震災があった時に助けてくれた市町村が壁に貼り出してあり、そこがもし災害にあったら一番に駆け付けると聞いた時、とても頼もしいと思いました。相馬市以外のところで災害があったとき、相馬市の備蓄品の貸し出しをしたりと、自分たちだけでなく、他の地域を支援することにも使うところに感銘を受けました。

今回のスタディーツアーでは、貴重な経験をたくさんさせていただきました。ありがとうございます。しかし、自分の未熟さのせいで筆舌に尽くしがたく、ありきたりなことしかこのレポートに書くことができませんでした。ここに書けなかったけれど、これ以外にもいろいろ学び、思うことがありました。これから自分の中で、ここで学んだことを少しでも吸収できるようになって、語り部として成長できるようになりたいです。貴重な三日間をありがとうございました。

## あの時と今

総合福祉学部 社会福祉学科 2年 傍士 千智

2011（平成23年）年3月11日、東日本中心にマグニチュード9.0の地震が発生し、太平洋沿岸の街は大津波に襲われた。その後、東京電力福島第一原子力発電所の事故（以下、原発事故）により、家があっても家に帰れない人が出たことは、当時小学生だった私の記憶にも残っている。

相馬地方広域市町村圏組合の情報によると、14時46分に起きた東北地方太平洋沖地震の後、14時49分に大津波警報が発令され、その約50分後、15時40分に津波第一波（7.3m）が到達した。人的被害（死亡者、負傷者）の統計は、災害関連死を含め、相馬市で497名、南相馬市で1,122名、住家被害（全壊、半壊、一部損壊）の統計は、相馬市で5,324棟、南相馬市で8,306棟となっている。そして、相馬地方では津波だけでなく、2011年3月12日から原発事故によって各地区に次々と避難指示が出されていく。最終的には、福島第一原子力発電所から20km圏内の地域（田村市、南相馬市、川俣町、広野町、楡葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、飯館村）に避難指示が発令され、街から人がいなくなった（現在は、南相馬市一部、浪江町一部地域等で避難指示が解除されつつある）。相馬市の東日本大震災前の人口は37,817人（平成22年10月）で、現人口は37,281人（令和元年6月）。南相馬市の東日本大震災前の人口は71,561人（平成23年2月）で、現人口は53,514人（令和2年2月）と少子化の影響も含め、人口減の傾向が見られる。

ちなみに、現在も地区の大半が帰宅困難地域となっている浪江町の現状について、浪江町ホームページに2018年4月に掲載された『浪江町震災記録誌』には、「平成30年10月に実施した住民意向調査では、『帰宅したいと考えている』が11.8%、『まだ判断がつかない』が30.2%、『帰還しないと決めている』が49.9%となっています」とあり、福島第一原発事故による人口減少への影響、居場所を追われることとなった住民の様子が読み取れる。

今回、福島県の太平洋沿岸側「浜通り」と言われる地域を巡るスタディーツアーに参加した。2月12日から14日までの3日間、主に相馬市、南相馬市、浪江町、双葉町、楡葉町、いわき市等を訪れ、様々な立場で被災した方々の「あの時（被災時）と今」の話を伺った。



↑五十嵐さん

当時、叔父と旦那さんと共に津波に飲まれ、自身のみ生還した五十嵐ひで子さんのお話。直接的な被害はなかったものの、相馬市の復興の道ゆりを見守ってきた井島順子さんのお話。福島第二原子力発電所に勤めていたものの、双葉町等原発事故の影響を直接受けた地域の復興のために仕事を辞めて地域活性化に貢献している一般社団法人AFW代表理事吉川彰浩さん（以下、吉川さん）のお話。淑徳大学のOBで、双葉地方広域市町村圏組合消防本部に勤めていた（現在も消防士）笹田丞さんのお話。各市町村の現在の経済や人口動態、観



↑吉川さん

光の状況のお話などを伺う機会があった。「あの時何があったのか、今どうなっているのか」を文章や映像として見ることは簡単だが、自分の目と耳と肌で、直接、見て聴いて触れることは簡単にできる経験ではないだろう。そうした語りを聞く中で、語る理由とは「次の世代に伝えるため」でもあるが、「あの時の経験の辛さ、悲しみなどの感情を整理するため（＝心のケア）」でもあるのだと思った。あの時の経験によって苦しんでいる人がいる。あの時の経験を活かしたいと願う人がいる。それぞれの思いを胸に私たちに向けて語っていただいた方々の表情、姿勢はとても印象深かった。



↑ソーラーパネルの広がった土地

地域のため人は住んでいない。そこには、窓ガラスが割れ荒れ果てた建物、汚染廃棄物の黒い袋がたくさん積まれた広い土地、放射線によって汚染された土地を活用しようと設置されたソーラーパネルが続く。「復興」とは、「元に戻る」ことだろうか。津波や原発事故によって、住むことができなくなった土地、住むには適していない土地ができた。そこにそのまま戻ることはできない。では住めなくなった土地に住んでいた人はどこに行けばよいのか。人・物・金がなくなった土地に「何を足せば何が戻る」と簡単に答えが出ていないのが、復興の難しさだと思った。加えて、吉川さんの話の中に、「皆には廃墟に見えるかもしれないけど、ずっと住んできた人からしたらそこには思い出が詰まっている。」「新しい建物を作って、古い建物を壊したけど、皆の集まる場所を壊して良かったのか。」とあった。「ハード面（建物、制度等）とソフト面（心、文化等）の復興（ケア）のバランスとは何か」を考える言葉であり、「復興」をより考えるきっかけとなった。

「あの時何があったのか、今どうなっているのか」。着実に何か変化しているのは、当時の写真と現状を見比べればわかることである。今回のスタディーツアーを通して、その変化を「復興」の一言で片づけてよいのかという疑問が浮かんだ。今、私の考える「復興」は「その土地に住む人に合った復興を目指す」ということである。ただ、「物があればよい、人が戻ればよい」ではなく、「住んで良かった」と思える場所にする事なのではないかと思う。ありきたりになってしまったが、災害が増発している近年を目の前に、「復興」の意義を考え続けていきたいと改めて感じた。来月再開する常磐線に乗って、また福島を訪ねたい。

最後に、今回のスタディーツアーにご協力いただいた現地の方々、先生方、そして共に学びを深めた学生の皆に改めて感謝申し上げます。

## スタディーツアーで見て聴いて考えたこと

総合福祉学部 社会福祉学科 2年 島田 夏海

スタディーツアーを終えての第一の感想は、とても「濃い」3日間だったということだ。

特に印象的であったことを「自分の命は自分で守ること」「つながり」「復興とはなんだろう」「震災での経験を意味のあるものとして生かす」この4つに分けてまとめたいと思う。

「自分の命は自分で守ること」は、当たり前のことだが、災害時では非常に重要なことだと改めて学ぶことができた。

伝承鎮魂記念館で、語り部の五十嵐さんからお話を伺った。五十嵐さんは、実際に津波にのまれたもののそこから生還したご経験をされた方でもあった。津波が来ても立ち尽くしてしまい、逃げようとしたときには津波にのまれてしまった。松の木につかまり上へ登ったが、一緒にいた夫と叔父は途中で流されてしまった。その後、家から700m程流された後に救助されたが、この時には低体温症の一手手前の状態で、服と眼鏡は津波に揉まれて身に着けていなかったということを教えてくださった。そして、最後に自分の命は自分で守るのだということも教えてくださった。実際に生還した方の言う「自分の命は自分で守る」という言葉はとても重く感じた。

「つながり」は、自治体間で結ばれた協定といった公的なつながり以外にも、困ったときに助け合えるお互い様なつながりなど様々な形がある。どのつながりも、つながりがあるということだけでも非常に心強いものなのだと考えることができた。

相馬市防災備蓄倉庫は、水や食料品、物資の備蓄のほか、避難所設備やヘリポート等を完備した災害時の拠点でもある。その倉庫の壁には、防災協定を取り結んでいる自治体のほか、協定の有無を問わず物資の提供や支援職員の派遣を受けた自治体の名前が張り出されていた。また、倉庫を案内してくださった井島さんは、炊き出し用の鍋やリアカー等の物資は、被災した地域へ貸し出しも行っていることと、賞味期限が近くなった食料は、市内の学校給食のほか、被災した地域や必要としている地域への寄付に役立てられていることを教えてくださった。壁に張り出されていた自治体や、井島さんのお話から、自治体規模で非常時に助け合えるつながりを大切にしていることがうかがえた。

様々な方のお話を伺いながら「復興とはなんだろう」と個人的に大きな疑問が残った。

南相馬市小高生涯学習センター所長の安部さんは、住宅やインフラ関係、除染等のハード面の復旧はほとんど完了しているが、人口の流出で人がいないことにより、産業の再生やコミュニティーの再生といった、社会・経済・文化活動等のソフト面での復興は不十分だと教えてくださった。復興には人がいることが欠かせないということが理解できた。

一般社団法人AFW代表理事の吉川さんとバスで避難指示解除区域を視察した。公営住宅が密集して建設されている様子を見ながら、吉川さんは「ここは住みたい町か」と疑問を投げかけていた。先ほどの安部さんのお話のこともあって、人が来て住みたい町になったら復

興ができるのか、それとも復興したいから人が来るような住みたい町にするのか。では、それは本当に復興といえるのか。といったことがずっと頭の中から離れなかった。

双葉町で一時帰宅者のための休憩所に立ち寄った。休憩所には花が植えてあった。しかし、休憩所前の道路を挟んだその奥は、草が生い茂っていて、イノシシなどの動物に荒らされたホームセンターがあった。私にはただの廃墟に見えた。取り壊して次に活用できるものを建てればよいと思っていた。しかし、吉川さんにとっては、懐かしくて大切なもので、取り壊されることは思い出を壊されるみたいだと語っていた。私は、復興のため、前に進むために取り壊すのだと考えていた。しかし、その復興が誰のためのものか本質を見失っていたのではないかとも思えた。では、本質的な意味のある復興とは何なのだろう。

今回お話をしてくださった方々の中には、震災で私たちには想像がつかないようなつらい経験や葛藤に苛まれていた経験をされていた。しかし、その事実も踏まえて、「震災での経験を意味あるものとして生かす」その姿からは、様々な「強さ」が感じられた。

自らのことを語って下さった方々の中では、五十嵐さんと吉川さんが特に印象深かった。五十嵐さんは、語り部として語ることで、津波のことを風化させないことや、亡くなった方への供養に繋がることを願って活動していた。吉川さんは、東電を辞めて、原発の現場を知る人間であり地元を愛する人間として、リアルな被災地の「今」を伝えて、復興のことや原発事故について答えがない事に挑み続けていた。当事者の方々から語られるものの事実や思いの重みを感じられた。そして、語っていただけたものを、意味あるものとして小さなことでも私たちが行動に移して生かし続けることが大切だということを学べた。語って下さった内容やツアー中にあった疑問には、今でも自分の中で消化しきれていないものもあるが、どんなに時間がかかっても自分の中に落とし込めたらと思う。

ツアー前に履修していた社会貢献と地域活動の講義内で、山下興一郎先生が「(台風等での)被害について知りたければ、瓦礫ではなく人を見なさい」とおっしゃっていた。この言葉の意味が、様々な方からお話を伺ってきた中で、自分の中で腑に落ちた瞬間があった。私たちに瓦礫や廃墟、放射能汚染物質に見えたものは、その人にとっては大切なものや思い出そのものであること。私たちに被災地に見えたものは、その人にとってはかけがえのない町であり故郷であること。これらの自分なりに理解することができたことが、このツアーでの一番の成果だと思う。機会があったら、このことを踏まえて次の活動に参加したいと思った。

## スタディーツアーを参加して感じたこと

コミュニティ政策学部 コミュニティ政策学科 2年 西澤 歩

震災から9年の月日が経とうとしている。震災当時、私は小学5年生だった。そんな私が大学2年生になって初めて震災後の福島県を訪れた。今回スタディーツアーを参加した動機は、宮城県の津波の被害や現地に直接行って当時のお話を聞かせて頂いたのに、福島県では一切そのような活動をしなかったので現状を見たい、聞きたいと思って参加した。実際に現地に行くと、まちのあちこちに震災の爪痕があり、長い年月を経っていても震災当時のままで時間が止まっている場所もあることに衝撃を覚えた。

スタディーツアー1日目は、福島県の浜通りにある相馬市に行った。この地域は地震後早い時間で津波が到達した地域である。慰霊碑／鎮魂記念館を訪れた。記念館の前には、松がありその松は津波に飲まれて変形していた。ここでは、当時の状況のビデオを鑑賞したり、津波に実際に飲まれて奇跡的に助かった五十嵐さんからお話を聞いた。五十嵐さんのお話で印象に残ったことは、自分の命は自分で守ることと、東日本大震災を風化させたくないという思いである。危ないと思った時にはもう遅い時があるので、手遅れにならないように家族とよく話して減災できるようにしたいと思った。次に、相馬港湾建設事務所を訪れた。施設に入っ



私たちの思い 相双の復興は港から」という文字が目についた。相馬港の隣には新たに防災緑地としてたくさんの松が植えられている。この松が成長して防災として役に立つのはまだまだ先ということを知った。いちご狩り体験を行った後、相馬市内をバスから見学した。消防団慰霊碑と相馬市防災備蓄倉庫を見学した。倉庫内は、一万人3日分の水や食糧が保管されていた。また、一面には連携地域が張られていた。震災はいつどこで起きるか分からないから国と自治体だけでなく、地域間での協力が迅速な支援に繋がると感じた。

スタディーツアー2日目は、南相馬市小高生涯センターに行き、センター所長である安倍克巳さんからお話を聞かせて頂いた。震災の時に行政がどのように動くのか聞けると思っていた。しかし、お話を聞いていると震災時では、全く情報が入ってこないため行政は無力になるという事を知った。そのため、自分で自分のことを考える。また、隣人同士の助け合いがとても大切だということを教えて頂いた。また、インフラ整備等のハード面はできても気持ちや内面的なソフト面は立ち直ることが難しいと感じた。午後からは元東京電力の社員であった吉川彰浩さんに浪江町～



豊岡町の避難指示解除区域を案内して頂いた。最初津波の被害が大きかった地区を視察した。説明を受け、地震が来たらすぐに身を守ることをお願いされた。また、何か感じたこと



や語ったことをギフトとして受け取り、次の人に意味のあるものとして伝えてほしいと言われた。視察を進めていくと帰還困難区域内でも休憩所があり下車した。休憩所の道路を挟んだ反対側は9年前の状態のままだと聞いた。長い年月をかけて放置された場所であったが、吉川さんが「廃墟に見えるかもしれないが僕らにとってはこれでも懐かしい気持ちになる。帰還困難区域解除に向け家

など解体しているが、解体されていくことにより思い出が消えていくように感じる。」と言っていたのを聞いて、たしかにここには人が住んでいた日常があったのだと心が重くなった。また、今でも答えが出ない言葉として「復興って何か。」とおっしゃっていた。確かに、震災前の状態を取り戻すことが復興というなら不可能なこと。



まちが帰還困難区域の解除のために動いていてもそれが終われば復興完了といえるのだろうか。そうとも言えないだろう。など色々考えたが結果として答えが出なかった。休憩所を後にして避難解除された大熊という地域に向かった。ここには新しい復興公営住宅が建設されていた。人は多少いた。一つ吉川さんが質問してきた。それは、「住みたいと思うか。」ということだ。震災後全く人が出入りできずここで避難した人は新しい地域で生活をしている。また、復興公営住宅は、コンビニやスーパーなどが近くになく住むことは出来るが、住みたいという気持ちは起きない感じがした。だから、「被災地を理解しろとは言わない。ただ、この地域を知ることその失敗を持ち帰ってほしい。」という言葉も聞いてまちとはどうあるべきなのか。と考えさせられた。まちの様子やエネルギーについて等の様々な説明されながら終始まちを見てきたが、言葉がうまく出ないことが多かった。また、吉川さんのお話は自分にとって衝撃と発見、考えさせられることがたくさんあった。言葉は今でもまとまらないが、簡潔にいて吉川さんの双葉郡への思いも震災後の町の変革も聞いたり見たりしても、すごいという言葉しか出ない。視察後、夕食の席で双葉郡の消防隊をしている笹田さんからお話を聞いた。震災時の周囲の様子や緊張感などを聞いてその状況が頭に浮かんできた。海が燃えているが見ているしかできないこと。危険と分かっているにもかかわらず救助に行くこと。家族がどこにいて心配だということ。消防や警察もパニックになったが職業柄もあったと思うが人を助けるということを第一に考えて動いていたことに尊敬をした。ただ、同時に災害時の救助は準備も規模も分からない状態だから自己犠牲で成り立っているとも感じた。

スタディーツアー3日目は、いわき市に向かった。平沼ノ内の海岸沿いにある被災した場所に行った。そこには、水子供養のための地蔵がいて、ボランティア等協力により搬出や洗浄して祀られていた。次に、アクアマリンふくしまに向かった。アクアマリンふくしまは、震災してからわずか4か月後に開園した。ここで学んだことは、災害時はどうしても人災



の方に目が行ってしまうが、被害にあうのは人間だけじゃない生物も含まれてということだ。ガラス越しに育てていた子たちが死んでいくことに何もしてあげられないことを聞くと、人でも生き物でも一つの命としてみて変わらないと感じた。次に、隣接しているいわき・ら・ら・みゅうに行った。ここの2階に

は、3.11のリアルな状況が展示されていた。一番衝撃を覚えたのは、実際の避難所の一部が再現されていたことだ。映像や話を聞く以上に物語っていることを感じられた。自分なら、ここに何日間もいるとなるとプライバシーも無くストレスで病んでしまうと思った。また、避難所はあくまで一時避難であってここから出て行き場に困ってしまうのではないかと感じた。



この3日間を通して目的である「いまできることは何か」ということを考えてみると、被災地でできることはないのではないかと思える。なぜなら、まちは行政やボランティアの協力によってハード面は出来てきた。しかし、ここから地域をどうしていくかを決めるのは、そこに住んでいる住民や震災前に住んでいた人である。ただできることとして私は、被災した地域とか関係なく今回学んだ東日本大震災のことを語るということをしたい。実際に被災地に足を運んでいる人は少ないと思う。だから、そういう人にも知ってもらうために語り部をすることで震災を風化させないようにしたいと思った。

また、何度も言われたことだが、災害が発生したら自分の身は自分で守るということだ。どこで何が起きるか分からないので、備えをして自分や家族など大切な人を守れるようにしたいと思う。今後も、訪れて、まちの変化や出会った人に会いたいと思った。

## スタディーツアーを経験して

コミュニティ政策学部 コミュニティ政策学科 1年 手崎 亮佑

今回のスタディーツアーを振り返ってみるととても充実していた。今回のスタディーツアーで感じたことは三つある。

一つ目は、自分の命は自分で守るということは大切であると改めて感じた。これには、二つの見方がある。一つ目は、初日の五十嵐さんという東日本大震災のときに津波に流されてしまった方の話からである。この地域では、津波というものは海岸の水が沖合にひいたら津波が発生するという話であった。震災当時、五十嵐さんは民宿を営んでいた方で、地震で割れたガラスの撤去をしていた時に津波に飲み込まれそうだ。地震が起こった直後に一度は外に出るもののまだ大丈夫であろうと思ったそうだ。このことから、地震が起きたらまずは自分の命を守ることが大切だということを改めて感じた。二つ目は、情報の混乱による自分の命を守るということだ。これは、南相馬市小高市生涯学習センター所長の安部さんの話を聞いて感じた。小高区では、住民が7万人いる人口のうち4千人しかバスでの避難ができていないということから住民の方々が自主避難によって避難した。その背景には、情報の混乱があり情報の共有ができていないということがあった。小高区では、津波被害があったため避難所開設の準備を行っていたが避難所を開設することはできませんでした。震災発生から4日後には市外に避難していて展開の変化が激しいということがあった。展開が激しいため、きちんとした情報を確保する手段の備えと同時に自分の命を守ることに専念していくことが重要であると考えた。

二つ目は、復興というのほどの状態を指すのかということである。このことは、元東電職員の吉川さんの話を聞いて感じたことである。

吉川さんの話を聞いて、まだ震災当時の建物が残っている場所を視察して今建っている建物は今後取り壊される予定になっており、取り壊すことによって自分の思い出・ふるさとがなくなるということをおっしゃっていたことが印象的だった。この地域は福島第一原発の影響で避難をする状況になり、その場を離れるということになった。街並みは、震災発生時のままになっていた。この光景は、吉川さんがよく通われていた街並みということだったので、とてもつらい気持ちなのではないかと想像した。復興という漢字には復旧の復という字が使われていますが、この漢字には「かえる」、「もどる」という意味があり、興には「盛んになる」、「おこす」という意味がある。しかし現実に見ると復興は程遠いのではないかと考える。復興という文字のように今後動いていくことは厳しいのではないかと考える。なぜなら、住民の中にはここでまた生活をしたいという方がいる中で事実建物の老朽化により、住めるような状態ではないということも挙げていて、今後は、今までの街並みのような感じになる街づくりに展開していくのがよいのではないかと考える。具体的には、城下町のように昔の様子を再現しているまちがある。昔を再現するという街づくりをしていく中で現代との調和を図りつつ、新たな魅力を持った街に生まれ変わると街の賑わいが出てくるのではないかと考える。

三つ目は、災害に対する備えの重要性である。これは、相馬市にある防災備蓄倉庫を訪問した

際を感じたことである。防災備蓄倉庫には、市民の人口の3分の1の3日間の食料が備蓄されている。また、この施設はもしもの時があっても開けられるように水圧を利用して開けることもでき、ヘリポートが設置されているため物資をスムーズに運ぶことができる工夫がなされていた。このような施設がもっと多く建設されることによって地域間の補完関係の連携なども深まっていくと感じる。災害が発生すると行政が次の行動に動くのに時間がかかるということが東日本大震災の時に起こった。今後は、南海トラフ地震や首都直下型地震が発生するということも言われている。今、防災備蓄品を見てみるとまだまだ不足しているのではないかとということがわかった。このツアーの中でも備蓄品の話聞くことができたので、震災の経験者からの生の声を参考にしながらもしもの時に対応できるように準備していきたいと考える。

最後に、今回のスタディーツアーを通じて敬愛大学の藤森さんがおっしゃっていた支縁ということを考えながら大切にしていきたいということがある。この支縁は縁を支えるという意味がある。一度つながりがあった縁に対しては大切にしていきたいという自分の気持ちから、今後は縁を支えるということとはどのようなことなのか、ということを考えながら今後の活動に対して生かせるようにしていきたいと考える。今回のスタディーツアーはここには書ききれないほど多くの感じたことや現地の状況を見ることができた。この経験を今後の生活に生かしていきたい。

## 第7回スタディーツアーで学んだこと

人文学部 歴史学科 2年 穴澤 拓実

私は、前回の第6回スタディーツアーに続き、今回の第7回スタディーツアーに参加させていただきました。今回のスタディーツアーでは福島県浜通りの地域を中心に、東日本大震災で発生した津波の被害や福島第一原子力発電所の事故による周辺地域への被害状況がどうなっていたのかを視察し、それと同時に現地の語り部の方々からお話を伺うことによって、当時の状況をより詳しく知ることができました。震災から今年で9年目を迎えますが、インフラの復旧と逆行して人口減少問題が深刻であることなどから、東日本大震災において被災した東北三県の中でも、福島県浜通りは特殊性があることにも気づくことができました。

スタディーツアー1日目は、相馬市の伝承鎮魂記念館に行き、語り部である五十嵐さんのお話を伺いました。五十嵐さんのお話は、自身が震災時に津波に襲われたことや一緒に避難していた夫が目の前で流されたという衝撃的な内容で、このお話を聞くことによって津波の恐ろしさを感じさせられたと同時に、避難する事の大切さを学ぶことができました。この伝承鎮魂記念館内には「468体の地蔵」があり、一体一体が手作りで作られているようで顔の表情がそれぞれ違っており、震災の津波で犠牲になられた468人の重さが伝わってきました。また、館外には大きな松の木があり、津波によって枝が折れているところがありました。観測された最大の高さが9mであったことから、津波がこんな高いところまで到達していたのかと思うと自然の脅威はとても恐ろしいのだと再確認させられました。しかし、五十嵐さんが帰り際に、高台にいる人はもう安心しきっているのか、地震が来ても避難していないということを仰っていました。ここから震災被害の「風化」というものが着実に進んでいることも事実なのだ実感するとともに、五十嵐さんはつらい過去を背負いながらも後世に伝えるという使命を語り部として担いながら、震災の記憶を風化させないようにしているのだと感じました。

その後、防災緑地の向かいにある福島県相馬港湾建設事務所を訪れ、東日本大震災による港湾施設の被害や、損壊したバースや沖防波堤の復旧作業についての解説がありました。この相馬港は物流拠点であると同時に防災拠点であるため、震災時はバースが破損して船の接岸が不可能だったために防災フロートで間接的に船を接岸させて救援物資を受け入れていたり、順次港が復旧したのちに大型船を入港させてより円滑に作業していたことを解説頂きました。後半では相馬市の復興への説明があり、防災緑地の整備や松川浦漁港海岸の整備の取り組みを紹介しながら、相馬市への観光誘致に向けて努力していることを教えてくださいました。相馬市は陸路からのアクセスが悪いということで、相馬港にクルーズ船を呼んで観光客を引き込みたいということでした。しかし、相馬港の岸壁が短いことによって入港できるクルーズ船が限られるという欠点や、相馬市を含んだ福島県浜通りに観光スポッ

トがないこと、福島第一原発事故による風評被害などによって観光客が激減しているなどの問題点が多数あり、実現に向けていくにはかなり難しい難題を抱えていると思うと同時に、相馬市や福島県浜通りの苦悩が少し伝わってきたように感じました。

その後、温室栽培のいちご狩り体験をしたのち、相馬市防災備蓄倉庫を見学しました。中に入ると、消防団の詰所としての機能で会議室や宿直できる部屋が完備されていたり、奥の壁には東日本大震災の避難誘導中に津波に巻き込まれて殉職された消防団員 10 名の遺影が飾られていました。備蓄倉庫内には水や食料、炊き出し道具の設備や、布団やストーブ、発電機などの生活物資などが備蓄されていました。備蓄庫の壁面には相馬市と災害協定（災害時等における相互応援に関する協定）を結んだ市町村のプレートが多く飾られており、職員派遣を受けた自治体のプレートも別途で飾られていて、その中にわたしが住んでいる東京都「足立区」の表記もあったことが個人的に驚いたと同時に誇らしく感じられた場面でもありました。協定は北海道から九州までの多くの自治体と結ばれており、近年発生した胆振東部地震や熊本地震においても協定に基づいて相馬市側から恩返しの意味も込めて支援物資を送ったというお話を伺うこともできました。この備蓄倉庫の機能として、お米や生ものを一時的に保管できるチルド室が完備されていたり、停電によって電源設備が喪失した場合であっても、ポンプ車からの放水によって水圧で外部からシャッターを開けられるという設備が整っていることがわかりました。このことから、震災の教訓がしっかりと活かされてこの備蓄倉庫が建てられているのだと感ずることができました。

その後、宿泊する旅館「いちぼう」に到着し、夕食を食べた後に 1 日目の振り返りを行って各人の情報の共有を行いました。その最中に、北海道と宮城県沖を震源とする地震が同時に発生し、この相馬市も震度 4 を観測する地震がありました。その時に思ったことは「災害はいつどこで起きてもおかしくない」と改めて感じ、また、この時に引率の先生方はとても落ち着いた状態で状況を把握しており、そのときに外部講師である藤森先生は「正しく怖がるのが大切」と仰っていて、必要以上の不安を誘発させずに正しい判断を整えることが防災時には重要な事なのだ実感しました。

スタディーツアー 2 日目は、南相馬市小高生涯学習センターに移動して、この施設の所長である安部克巳さんに講話をしていただき、発災当時の南相馬市がどんな被害を受けたのかを詳しく解説していただきました。東日本大震災の発災時には、津波が押し寄せて人的被害が発生したのち、この南相馬市は福島第一原発から半径 20 km 圏内に位置しているため、原発事故発生時には小高区・原町区・鹿島区のそれぞれに警戒区域・計画的避難区域・緊急時避難準備区域が設定され、放射線物質の被害が深刻であるため、警戒区域には約一年間立ち入ることができず、警察によって道路封鎖が行われていたことを知りました。現在では、ハード面であるインフラの整備が整っている一方、ソフト面の風評被害がまだまだ解決しておらず、家族の離散などによって人が戻ってこないのが現状で、人口が減少したままであると南相馬の地域の活性化が見込めないことや有害鳥獣によって田畑が荒らされるなど、人がいないことによる悪循環が深刻であることがわかりました。また、原発事故が発生した

ときには、国をはじめとする警察・自衛隊・各自治体なども混乱しており、情報が錯綜してしまっていて正しい情報を得ることが出来なかったというお話を聞きました。それについて現在は改善されているのかを尋ねたところ、現在ではこのような混乱が起きないように各機関とも連携をとっているとのことでした。その後、小高区を視察し、人口が減少したことによって四つの小学校が一つに併合して四つの小学校の銘板と校章が同時に混立している風景や、原発事故の影響でJ R小高駅の中には放射線量測定機が取り付けられている光景があり、人口問題と原発事故の問題が伝わってきました。

午後からは、元東電社員で一般社団法人AFW代表理事である吉川彰浩さんが語り部として福島第一原発事故による帰宅困難区域の地域について説明をして頂きました。当初は沿岸部に移動して、津波の被害について解説していただき、ほとんどの建物が津波によって流されましたが、小学校跡の施設だけはかろうじて残っており、そこに通っていた小学生は小高い林に全員逃げて無事だったという話をして頂きました。しかも避難した小学生の中には車いすの子もいて、全員が避難することが出来たと仰っており、吉川さんは、「子どもたちができる事は大人たちもできる」と強く協調されました。その話と同時に大津波に巻き込まれた人々がたくさんおられたと仰っていました。しかし、発災翌日になると原発が危ないという錯綜した情報が伝わり、その地域からほとんどの人々が避難しました。「原発事故で亡くなった人は誰もいない」というのが政府と東電の公式発表であるが、それは、放射能漏れで直接亡くなった人はいないという見解であって、津波に巻き込まれて自力で脱出できなかった人は翌月に救助隊が来るまで瓦礫の中にそのまま閉じ込められた人がたくさんいらっしゃったと言っていました。地元の消防士や消防団の方が泣きながら助けに来ましたが、「これでは助ける意味合いが変わっている」と吉川さんは仰っていて、こんなに辛い現実があったのだと感じました。

その後、前田建設株式会社の双葉町ふれあい広場にあったジオラマの前で、昔の双葉町では、地区ごとによって運動会が開催されていたことを語っていました。地区対抗であったからこそ人と人の繋がりが強かった町でしたが、原発事故によって一瞬でその日常が失われてしまい、町全体が廃墟になってしまいました。どんなに荒れた我が家であっても、その人から見たらそれは廃墟ではなく生まれ育った大事な家であり、いまだに元に戻れない人や原発事故から時が止まった街を見て、とても切ない気持ちになるとともに心が痛くなりました。福島第一原発に近づくにつれて汚染土を積んだダンプカーがそこら中に往来し、貯蔵施設に仮埋設する光景がありました。大熊町のメガソーラーの近くを通った際、吉川さんは殺風景と表現した言葉からは、太陽光パネルで発電できる量は微々たることや、設置した跡地に農地を作ることができないのにこんなに広い土地を使うなど複雑な気持ちを感じました。

檜葉町でグループワークをした際に、私たちの先輩にあたる笹田さんからお話を頂きました。津波被害における人命救助や原発事故が発生した際に決死隊として1 Fに出動したことなどの、緊迫した当時の状況について詳しく語っていただき、見えない放射線物質への恐怖と闘いながら死を覚悟して出動した現実があったのだと強い衝撃を受けました。当

時は、東京消防庁のハイパーレスキュー隊が活躍したことをニュースなどで大々的に報じられていますが、それよりも前に、地元の消防士である双葉郡の消防隊が原発の水蒸気爆発の際に動いていたことを知れたとともに、その消防士の方が淑徳大学の先輩であるのを誇りに感じました。

スタディーツアー3日目は、いわき市の賽の河原に行き、東日本大震災の津波によって被災した水子地蔵について学びました。この賽の河原には、江戸時代からの古いものもあり、一部は頭部が欠けているなどの損傷している地蔵もありましたが、状態が良いものの多くが救出され、洞窟の上にある崖に供養されていました。引率の先生方の中にも水子地蔵にゆかりがある人もいて、鎮魂する方のためにも今尚埋まってしまっている水子地蔵も早く救出してほしいと強く思いました。そのあと、アクアマリンふくしまに行き、東日本大震災の津波によって水族館が被災したことや復旧までの流れを水族館の方が説明していただきました。資料映像やパワーポイントによる解説により、津波での浸水被害によってサンゴ礁をはじめとする約750種18万点の生物が死滅し、水族館としては壊滅状態となっていたことがわかりました。その後、ボランティアやほかの水族館からの救援を受けたこともあって四カ月後には、水族館を再オープン出来たとのことでした。しかし、来館者数は震災前と比べると半分ほどに減ってしまい、ここでも福島第一原発による風評被害が影響しているのを感じ取ることが出来ました。

今回のスタディーツアーでは、東日本大震災によって発生した福島県浜通りにおける津波・原発事故における被害について主に学び、相馬市からいわき市までの福島県浜通りを周ることによって、今まで自分が思っていた東日本大震災における被害のイメージが大々的に変化しました。自然災害と原発事故が重なったことによって、地域の状況がより複雑化し、「被災地における復興とは、何を以て復興と言えるのだろうか？」という疑問も生まれ、答えのない問題に今も苦しんでいる人々が多くいる現実を目を向けないといけなそう思いました。また、語り部の方々が共通して「自分の命は自分で守る」という事を強く協調されていました。この言葉の意味を強く意識して、いつ来てもおかしくない災害に備えたいと思います。この3日間でもとても濃い内容の体験や話を語り部の方々を通じて学ぶことができました。情報量が膨大で、残念ながらすべてを吸収することは出来なかったとは思いますが、今後の防災のためにも理解できるように勉強していきたいと思っています。

最後に、大変お忙しい中このスタディーツアーに時間を頂いた皆様に感謝申し上げます。



写真1 「相馬市防災備蓄倉庫（相馬兵糧蔵）」



写真2 「福島第一原子力発電所と汚染土の仮埋設」



写真3 「賽の河原（救出された水子地蔵）」

## 東日本大震災復興支援プログラム

2019年度 第7回 スタディーツアー

《引率教員コメント（教育福祉学科准教授 小林秀樹）》

今回のツアーを通じて、震災の教訓を生かし復興に向け力強く取り組む方々から多くのことを学ばせていただいた。特に、日常を大切に生きること、自分のふるさとを大切にすること、そして防災意識を高め、いざというときのために備えることの大切さを学び、学生たちはこれからの自分のあり方を深く考えてくれたように思う。

『命の大切さ』という言葉はよく耳にするが、現地を見て、震災を経験された方の話を実際に聞くことで、改めて実感することができるのではないだろうか。参加してくれた学生のみなさんには、学ばせていただいた福島の地を忘れることなく、よりよい明日に向かって共に未来を築く人になっていって欲しい。ツアーでの学びを生かし、みなさんが活躍されることを期待しています！



「福島第一原子力発電所と汚染土の仮埋設」



相馬市防災備蓄倉庫



吉川理事の解説と双葉町のジオラマ



アクアマリン ふくしま



平沼ノ内「賽の河原」（新たに安置された水子地蔵）

この度のスタディーツアーは、公益財団法人福島県観光物産交流協会から取材の依頼を受け、「福島県の教育旅行情報 ふくしま教育旅行」ウェブサイトに掲載されました。

- ・福島県教育旅行ウェブサイト：<http://www.tif.ne.jp/kyoiku/>
- ・ふくしま教育旅行 Facebook：<https://www.facebook.com/FukushimaKyouikuTravel/>



## 台風第15号、第19号等に関連するボランティア活動

## 台風第 15 号、第 19 号等に関連するボランティア活動について（報告）

大学地域支援ボランティアセンター

- 台風第 15 号、第 19 号と大雨では、キャンパスの所在する千葉県、埼玉県ほか広域で被害があり、各地では災害ボランティアセンターが設置された。
- 大学ボランティアセンターでは、事業計画に基づき、募金活動、ボランティア活動の検討を急ぎ、全学生、教職員にメッセージを配信するとともに、下記によりボランティア活動を進めてきた。
- 台風 15 号で停電が続き、混乱のあった千葉県では、現在は災害ボランティアセンターは閉所している。
- また、近県のニーズも一部では引き続きあるものの、本学の活動として学生・教職員のボランティア支援活動については一区切りすることとしている。
- 現在、長野県ほか各県でボランティア活動のニーズはあり、応急仮設住宅などにおいて生活再建を進める段階にある地域もあり、災害ボランティアから、生活再建期の支援の必要性については、引き続き大学地域支援ボランティアセンターで状況を把握している。
- 今回の活動においては、学生のみならず教職員の積極的な参加もいただいた。利他共生の理念を実現することに資する活動となったことについてお礼申しあげたい。
- 活動後、各地からは、竹内部長あて、架電などにより学生などへの感謝が表された。
- 社会福祉関係では、平時より関係のある、千葉県内社会福祉協議会、千葉市社会福祉協議会ほか、社会福祉士実習施設（社会福祉協議会）の災害ボランティアセンターとの連携が速やかに行われたほか、千葉県各地に行政、福祉施設などに働く卒業生が災害支援にかかわっており、本学のネットワーク力がさらに活かされたことは評価できる。
- 自然災害は毎年発生しており、今回の取り組みを振り返り、今後の速やかな実施体制の検討などを更に進める必要がある。

### 記

#### 主なボランティア活動内容

##### 1. 八街市（第 1 回）への支援

- (1) 期日：令和元年 9 月 22 日（日）
- (2) 活動場所：千葉県八街市の農家
- (3) 支援要請元：八街市社会福祉協議会（八街市災害支援ボランティアセンター）
- (4) 参加人数：14 名（教職員 3 名、学生 11 名）

総合福祉学部社会福祉学科 3 名（千葉キャンパス）

総合福祉学部実践心理学科 2 名（千葉キャンパス）

コミュニティ政策学部コミュニティ政策学科 2 名（千葉キャンパス）

看護栄養学部社看護学科 2 名（千葉第二キャンパス）

教育学部子ども教育学科 1 名（東京キャンパス）

(5) 活動内容：農家のビニールハウスのビニールはがし、フレームの解体



## 2. 八街市（第2回）への支援

(1) 期日：令和元年9月28日（土）

(2) 活動場所：千葉県八街市の農家

(3) 支援要請元：八街市社会福祉協議会（八街市災害支援ボランティアセンター）

(4) 参加人数：10名（教職員5名、学生5名）

総合福祉学部社会福祉学科2名（千葉キャンパス）

コミュニティ政策学部コミュニティ政策学科2名

（千葉キャンパス）

経営学部経営学科1名（埼玉キャンパス）

(5) 活動内容：ビニールハウス解体（ビニールはがし）



## 3. 南房総市への支援

(1) 期日：令和元年10月6日（土）

(2) 活動場所：千葉県南房総市 市内民家

(3) 支援要請元：南房総市社会福祉協議会（南房総市災害ボランティアセンター）

(4) 参加人数：12名（教職員5名、学生7名）

総合福祉学部社会福祉学科3名（千葉キャンパス）

総合福祉学部教育福祉学科2名（千葉キャンパス）

経営学部経営学科1名（埼玉キャンパス）

人文学部表現学科1名（東京キャンパス）

(5) 活動内容：民家の家屋内の片付け



## 4. 長柄町（第1回）への支援

(1) 期日：令和元年11月10日（日）

(2) 活動場所：千葉県長柄町 町内民家

(3) 支援要請元：長柄町社会福祉協議会

(4) 参加人数：10名（教職員4名、学生6名）

総合福祉学部実践心理学科1名（千葉キャンパス）

コミュニティ政策学部コミュニティ政策学科1名（千葉キャンパス）

教育学部こども教育学科 1 名 (埼玉キャンパス)

経営学部経営学科 2 名 (埼玉キャンパス)

短期大学部健康福祉学科 1 年 (東京キャンパス)

(5) 活動内容：民家の片付け (主に泥の掻き出し、居住者の話し相手)



#### 5. 長柄町 (第 2 回) への支援

(1) 期日：令和元年 11 月 16 日 (土)

(2) 活動場所：千葉県長柄町 町内民家

(3) 支援要請元：長柄町社会福祉協議会

(4) 参加人数：8 名 (教職員 2 名、学生 6 名)

総合福祉学部社会福祉学科 1 名 (千葉キャンパス)

看護栄養学部看護学科 1 名 (千葉第二キャンパス)

看護栄養学部栄養学科 2 名 (千葉第二キャンパス)

短期大学部こども学科 2 名 (東京キャンパス)

(5) 活動内容：民家の片付け (主に、泥の掻き出し、側溝の泥の掻き出し、居住者の話し相手)



## 災害支援ボランティア マニュアル

※2019年度に実施した災害支援ボランティアにて、作成したマニュアルです。

### 【概要】

1. 日時： 年 月 日 ( )
2. 受付場所：
3. 時間：8：10～17：00（解散予定）
4. 参加者：学生 名 引率教職員： 名 ( )

### ◆【災害ボランティア スケジュール（目安）】

- 8：10 引率教職員蘇我駅東口スクール乗り場に集合
- 8：15 マイクロバス到着  
備品確認、参加者出席確認
- 8：30 全員集合次第出発
- ・参加者出欠確認
  - ・備品の配布（ビブス・飲料・タオル(炎天時帽子を忘れた希望者に支給)）
  - ・学生リーダーの選出(現地での指示役.依頼者のニーズを確認しつつ進行する)
- ※ボランティア経験のある学生がふさわしい
- ・1日の簡単な流れを説明

9：30 到着（予定）

【施設】

【住所】

【担当者】

【連絡先】

※駐車場は隣の役場駐車場をご利用ください

到着後

該当災害ボランティアセンターにて準備

- ・必要書類等記入（健康状態申告等）
- ・ボランティア活動説明
- ・ボランティア指示書受取
- ・備品受け渡し

軍手、当日担当する活動内容により（工具など）

※場合によっては、災害ボランティアセンター運営業務補助となります。

準備でき次第

- ・ボランティア派遣先へ移動（又は、現地で用意された軽トラ等）
- ・マイクロバスにて派遣先へ移動
- ・派遣先への挨拶及び活動指示の確認(併せてトイレの使用許可を得る)

12:30 もしくは 13:00

- ・昼休憩（約1時間） ※バス内で昼食をとる（状況による）  
※参加者の体調を考えつつ適宜休憩を入れること。

（50分作業し10分休憩するサイクル等作業グループ内で相談する）

15:30（予定）

- ・ボランティア活動終了
- ・ボランティア依頼者への挨拶
- ・参加者の点呼後バスへ移動
- ・災害ボランティアセンター帰着

16:00（予定）

- ・備品返却
- ・ボランティア活動アンケートの記入
- ・活動期間証明書を記入(必要な学生のみ)※センターにて受領

17:00（予定）

- ・蘇我駅東口スクールバス乗り場帰着（学生、教職員共に）  
※本学の備品について  
（ビブス等）バスのドライバーに預け、千葉キャンパスに荷下ろししてもらう。

#### ◆【引率者 TODO リスト】

##### 出発前

- ボランティア参加者出欠確認（参加者リストにチェック）
- 備品確認

##### バス内（行き）

- バス車内での自己紹介（教職員）、引率教員からのコメント
- 備品配布（ビブス、タオル（炎天時帽子を忘れた希望者に支給））
- 当日の写真撮影に関する確認 ★（学生）
- 学生リーダーの選出
- 1日の流れを周知

##### ボランティアセンター到着時

- 災害ボランティアセンターへ受付への誘導
- 必要書類の記入指示
- 指示書受取確認
- 支給品受取確認
- 当日の写真撮影に関する確認（ボランティア先）

### ボランティア活動中

- 休憩時間の管理
- 参加者の体調確認
- 活動の様子の写真撮影（学生や被災された方へ最大限の配慮はする必要あり）

### ボランティアセンター帰着時

- 活動後の必要書類等の記入指示
- 高速道路料無料措置書類（復路）ボランティア活動確認欄に必ず押印をもらう

### バス内（帰り）

- 備品（ビブス）の回収
- ボランティア参加学生へのアンケートの記入を依頼する
- 引率者自身もアンケートを記入する（後でメール等にて送っていただいても可）

### 蘇我駅到着後

- 備品の返却をドライバーへお願いする
- ※終了報告の連絡は不要です。

### ◆【大学備品リスト一覧】

マイクロバスの後ろに積んでいます（行き）

活動終了後、同様にマイクロバスの後ろに積んでおいてください（帰り）

月曜日に大学地域支援ボランティアセンターで回収します。

- ボランティア活動アンケート（要回収）
- バインダーアンケート用（8枚）
- ビブス（要回収）（12着）
- タオル（炎天時帽子なしの希望者に支給 回収不要）（5枚）  
熱射病対策（帽子の代替）、熱中症対応（水等で濡らし冷却）、骨折等の固定具
- ウエットティッシュ（4個）
- 使い捨てふせん布ツナギ L（7着）LL（7着）
- 救急箱（箱の中に入っているもの）  
・絆創膏1箱・消毒綿1箱・ピンセット1本・アルコールティッシュ1パック
- 作業マスク1セット（50枚入り）
- スポーツドリンク1ケース（本）（必要に応じて支給してください）
- 軍手（7セット）
- 防水手袋（1セット）
- 安全鉄足（9セット）
- 厚手ゴム作業手袋 M（6セット）L（4セット）
- ゴミ回収ビニール袋（1枚）

- 大型買い物袋 1枚（備品を入れてある袋）
- デジカメ（1台）
- ボールペン（3本）
- ラインマーカー（2本 青、緑）
- レインコート（1着）
- 30000円（緊急時用予備費）

**◆【引率教職員諸注意】**

- ・参加者の点呼は必ずおこなってください。  
当日、遅刻・欠席者が出た場合には、配布の名簿より電話にて連絡をし、8時40分を過ぎても連絡が取れない場合には、出発してください。
- ・大学の備品の支給について  
引率教職員は協力の上、参加者がバスに乗車次第、ビブスなどを支給してください。  
また、帽子の有無を確認し、忘れた場合にはタオルを帽子のかわりに使うよう支給をお願いします。  
（炎天時の作業が想定される場合）
- ・高速道路無料措置書類  
バスが到着したら、バスドライバーに高速道路無料措置書類を渡してください。
- ・記録用、HP掲載用写真撮影と写真撮影の承諾確認  
ボランティア実施後、本学HPに実施報告を掲載する予定です。可能な範囲で撮影をお願いします。  
ボランティア活動記録写真を撮影するにあたって、学生に向けてWEBページに掲載する旨を伝え、写真を撮影の同意を必ず確認してください。撮影がNGの学生に対しては、姿が写らないよう写真撮影をお願いします。
- ・ボランティア活動内容について  
災害ボランティアセンターの方でも安全は考慮されておりますが、それでも危険が伴うこともあります。  
稼働現場にて、依頼者から無理な依頼が来た場合には、無理をせず断ってください。  
学生、教職員の安全を第一に考えて行動いただけますようお願いいたします。  
50分作業し10分休憩するサイクル等、作業グループ内で相談して、定期的に休憩をとるようにしてください。
- ・学生の体調管理について  
学生の申し出がなくても、体調が悪いと見受けられた時には、すぐにマイクロバスに戻り休憩を取らせてください。（個別対応可）
- ・災害ボランティアセンターの支給品の管理について  
返却を伴う支給品がある場合には、活動前に必ず数を確認し、返却時には数が合うようお願いいたします。
- ・ボランティア活動アンケートの協力のお願い  
今後のボランティア活動支援の改善に活用したいと思います。当日回収にご協力をお願いします。

◆【緊急時について】

- ・負傷や体調不調等による緊急時には、派遣先の災害ボランティアセンターに連絡し、現地の病院等の紹介など相談の上、対応してください。
- ・要対応学生を保護者に引き渡すまで、付き添いをお願いします。
- ・予備費（30,000円）の中で、タクシー代、治療費他必要経費の支払いをお願いします。（領収書を添付）



# 認知症サポーター養成講座

この講座は学生のみならず教職員が地域社会の一員として、認知症の方との接し方を理解し、積極的に行動できることをめざして淑徳大学地域支援ボランティアセンターが主催しています。本学では今後も地域住民とも連携しながら、積極的に取り組んでいきたいと思ひます。

#### ◆埼玉キャンパス

日 時：2019年12月6日（金）16時20分～17時50分

場 所：1号館201教室

受講者：67名（学生63名、教職員4名）

講 師：三芳町地域包括支援センター 高市 朋 氏

認知症について正しく理解し、認知症の人や家族の応援者となる「認知症サポーター養成講座」を実施しました。



#### ◆東京キャンパス

日 時：2019年12月3日（火）

受講者：28名（学生25名、一般1名、教職員2名）

講 師：ハッピーネット若葉ゆめの園デイサービスセンターセンター長 鹿糠沢 裕太 氏

ハッピーネット若葉ゆめの園地域密着型デイサービスはなぐるま 菅谷 亜佐美 氏

認知症に対する正しい知識と理解をもち、地域で認知症の人やその家族に対して、できる範囲で手助けをする「認知症サポーター」の養成講座を開催しました。

まずは講師の先生から、認知症についての正しい知識を学びました（写真①）。その後5名程度のグループに分かれて、認知症の方への対応について話し合い（写真②）、グループで話しあった意見を、全体で発表しました（写真③）。グループワーク後は、地域で認知症の方や、その家族の手助けをする意義について、ボランティア運営委員の教員から話があり、受講する学生は、講座の内容をリアクションペーパーにまとめて提出し、講座を終えました。

認知症サポーター養成講座を修了した学生・一般の方には、受講の証としてオレンジリングが付与されました。

①認知症についての講座



②一般の方を交えたグループワーク



③グループで話しあった意見を発表



④リアクションペーパーにまとめ





## 2. 各キャンパスにおける活動内容

※センター活動は除く



## 2019年度 ボランティア活動実績(千葉キャンパス取りまとめのみ)

日時	種別	単発 継続	件名	依頼元	内容	人数	備考
4月～	教	継	大森小学校学習支援	大森小学校	教員サポート	1	
4月～	教	継	千葉市学習支援	千葉市内	教員サポート	9	
4月～	他	継	県警チップス	千葉県警察	非行少年のサポート	3	
4月～	教	継	松ヶ丘小学校学習支援	松ヶ丘小学校	教員サポート	1	
4月28日	障	単	中野学園スポーツレクリエーション大会	中野学園	スポーツ大会支援	1	
5月～	教	継	蘇我小学校学習支援	蘇我小学校	教員サポート	1	
5月3日～5日	他	単	赤十字キャンペーン	日本赤十字	イベント支援	12	
5月4日	障	単	スペシャルオリンピックス(陸上)	千葉県障害者スポーツ協会	スポーツ大会支援	1	
5月～6月	障	単	スペシャルオリンピックス(バスケット)	千葉県障害者スポーツ協会	スポーツ大会支援	1	
5月	他	単	あしなが募金 春	あしなが育英会	募金支援	7	
5月11日	障・教	単	香取運動会	香取特別支援学校	運動会支援	7	
5月～6月	障	単	スペシャルオリンピックス(サッカー)	千葉県障害者スポーツ協会	スポーツ大会支援	1	
5月12日	他	単	茂原福祉子どもまつり	茂原市社会福祉協議会	地域イベント支援	1	
5月15日	障	単	ゆうあいピック(フライングディスク)	千葉市保険福祉局	スポーツ大会支援	2	
5月18日	障	単	スペシャルオリンピックス(テニス)	千葉県障害者スポーツ協会	スポーツ大会支援	1	
5月18日	障・教	単	長生運動会	長生特別支援学校	運動会支援	5	
5月19日	他	単	ちばクラフト青空ピアガーデン	ちばクラフトピアガーデン実行委員会	地域イベント支援	2	
5月～	教	単	八千代市学習支援	八千代市	学習支援	2	
5月24日	他	単	自転車キャンペーン	千葉市市民局市民自治推進部地域安全課	イベント支援	5	
5月25日	障	単	光風会春風祭	社会福祉法人 大久保学園 光風みどり園	イベント支援	6	
5月25日	障・教	単	桜が丘運動会	桜が丘特別支援学校	運動会支援	2	
5月26日	障	単	千葉県障がい者スポーツ大会(卓球)	千葉県障害者スポーツ協会	スポーツ大会支援	7	
5月26日	障	単	千葉県障がい者スポーツ大会(陸上)	千葉県障害者スポーツ協会	スポーツ大会支援	10	
5月	障	単	スペシャルオリンピックス(バスケット)	千葉県障害者スポーツ協会	スポーツ大会支援	2	
5月～	障・教	継	学校生活サポート	千葉市養護教育センター	学習・生活支援	1	
6月～	他	継	愛光ともいき食堂	社会福祉法人 愛光	スタッフ支援	2	
6月1日	障	単	あじさい祭り	社会福祉法人 大成会	イベント支援	1	
6月1日	障	単	スペシャルオリンピックス(競泳)	千葉県障害者スポーツ協会	スポーツ大会支援	2	
6月～	障・教	継	フレッシュサポーター	千葉県教育委員会	教員サポート	1	
6月1日	障・教	単	松戸運動会小学部	松戸特別支援学校	運動会支援	2	
6月2日	障	単	千葉県障がい者スポーツ大会(水泳)	千葉県障害者スポーツ協会	スポーツ大会支援	8	
6月～	教	単	USFキャンプ	一般財団法人 UNITED SPORTS FOUNDATION	スタッフ支援	3	
6月8日	障	単	千葉県障がい者スポーツ大会(STT)	千葉県障害者スポーツ協会	スポーツ大会支援	9	
6月9日	他	単	生実町体育祭	生実町内会	体育祭支援	31	
6月9日	障	単	スペシャルオリンピックス(バスケット)	千葉県障害者スポーツ協会	スポーツ大会支援	6	
6月9日	障	単	スペシャルオリンピックス(卓球)	千葉県障害者スポーツ協会	スポーツ大会支援	3	
6月9日	障	単	千葉県障がい者スポーツ大会(ボウリング)	千葉県障害者スポーツ協会	スポーツ大会支援	5	
6月15日	障	単	スペシャルオリンピックス(競泳)	千葉県障害者スポーツ協会	スポーツ大会支援	1	
6月15日	障	単	スペシャルオリンピックス(陸上)	千葉県障害者スポーツ協会	スポーツ大会支援	3	
6月16日	障	単	スペシャルオリンピックス(ボウリング)	千葉県障害者スポーツ協会	スポーツ大会支援	8	
6月22日	障	単	スペシャルオリンピックス(ボウリング成田)	千葉県障害者スポーツ協会	スポーツ大会支援	2	
6月23日	障	単	スペシャルオリンピックス(ボウリング鎌取)	千葉県障害者スポーツ協会	スポーツ大会支援	1	
6月29日～	他	継	千葉市成人を祝う会運営協議員	千葉市子ども未来局	地域イベント支援	2	
6月29日	障	単	全国肢体不自由者父母の会千葉大会	全国肢体不自由者父母の会	イベント支援	2	
6月29日	障	単	千葉県障がい者スポーツ大会(フットベース)	千葉県障害者スポーツ協会	スポーツ大会支援	10	
6月30日	障	単	スペシャルオリンピックス(バスケット)	千葉県障害者スポーツ協会	スポーツ大会支援	5	
7月～	教・保	継	子どもルーム	千葉市社会福祉協議会	スタッフ支援	2	
7月～	他	継	千葉ジェッツふなばしホームゲームランドスタッフ	千葉ジェッツ	イベント支援	1	

## 2019年度 ボランティア活動実績(千葉キャンパス取りまとめのみ)

日時	種別	単発 継続	件名	依頼元	内容	人数	備考
7月6日,7日	教	単	USFキャンプ	一般財団法人 UNITED SPORTS FOUNDATION	スタッフ支援	1	
7月6日	他	単	白旗七夕まつり	白旗町内会	地域イベント支援	3	
7月27日	障・他	単	ちば美香苑納涼会	ちば美香苑	イベント支援	2	
7月27日	保	単	ローゼンかみやま保育園お祭り	社会福祉法人 千葉県福祉協議会	スタッフ支援	2	
8月1日	他	単	ピーチクリーン	千葉市民花火大会実行委員会	イベント支援	40	
8月7日、8日	他	継	南町夏まつり	蘇我南町三丁目町内会	地域イベント支援	2	
8月17日	他	単	生実町内会花火大会	生実町町内会	地域イベント支援	18	
8月18日	他	単	千葉市親子三代夏祭り	千葉市を美しくする会事務局	地域イベント支援	2	
8月18日	障	単	パラスポーツの「輪」フォーラム	千葉県健康福祉部 障害者福祉推進課	スタッフ支援	2	
8月18日	他	単	船橋東武DE夏祭り	船橋東武DE実行委員会 (NEXT GENERATIONS)	地域イベント支援	1	
8月21日	障	単	ドリームナイト・アット・ザ・ズー	千葉市動物公園	イベント支援	70	
8月21日	障・教	単	児童養護施設卓球大会審判	千葉県児童福祉施設協議会	スポーツ大会支援	8	
8月	教	単	なみあいCAMP	NPO法人 なみあい育遊会	スタッフ支援	1	
9月～	教	継	千葉市学習支援	千葉市教育委員会	学習支援	1	
9月～	障・教	継	フレッシュサポーター	千葉県教育委員会	教員サポート	4	
9月1日	他	単	マジカルミライ	千葉市社会福祉協議会	イベント支援	1	
9月7日	障	単	ハピネス祭り	社会福祉法人 千葉アフターケア協会	イベント支援	2	
9月7日、8日	他	単	レッドブルエアレース	レッドブルエアレース千葉2019後援会	イベント支援	6	
9月13日	障	単	千葉県障がい者スポーツ大会 (ソフトボール)	千葉県障害者スポーツ協会	スポーツ大会支援	1	
9月18日～	教	継	海浜打瀬小学習支援	海浜打瀬小学校	教員サポート	1	
9月29日	障・他	単	Go!Together!	千葉市他	スポーツ大会支援	4	
9月29日	他	単	竹林整備ボランティア	ちば里山・バイオマス協議会	スタッフ支援	1	
10月、11月	他	単	J E F かざぐるま	J E F ユナイテッド	イベント支援	10	
10月9日	教	単	大蔵寺小キャンパスツアー	大蔵寺小学校	教員サポート	2	
10月19日	他	単	あしなが募金 秋	あしなが育英会	募金支援	2	
10月20日	障	単	市原障がい者スポーツ大会	ふる里学舎	スポーツ大会支援	4	
10月26日	他	単	龍澤祭赤い羽根募金	千葉市社会福祉協議会	募金支援	1	
10月29日	障	単	バラフェス	日本財団パラリンピックサポートセンター	スポーツ大会支援	3	
10月31日	他	単	蘇我コミュニティまつり	千葉市中央区蘇我コミュニティセンター	地域イベント支援	1	
10月31日	障	単	中学校手話講座	習志野市立第七中学校	イベント支援	1	
11月8日、9日	障・教	単	松戸松特祭	松戸特別支援学校	文化祭支援	5	
11月8日～	教	継	八千代学習支援	八千代市教育委員会	教員サポート	1	
11月9日	障・教	単	香取かよう祭	香取特別支援学校	文化祭支援	4	
11月16日	障・教	単	市川ばらき祭	市川特別支援学校	文化祭支援	10	
11月16日	教・他	単	「運動が苦手な子」の教室	NPO法人 スマイルクラブ	スタッフ支援	1	
11月17日	障	単	TOKYOみみカレッジ	東京都	イベント支援	1	
11月17日	障	単	千葉県障がい者スポーツ大会 (バスケ)	千葉県障害者スポーツ協会	スポーツ大会支援	5	
11月23日	障	単	千葉県障がい者スポーツ大会 (バレー)	千葉県障害者スポーツ協会	スポーツ大会支援	6	
12月5日	他	単	10円子ども食堂	天才保育ランドにこここサンス	スタッフ支援	1	
12月7日	他	単	蘇我いきいきフェス	千葉市蘇我いきいきセンター	地域イベント支援	7	
12月8日	他	単	南町もちつき	蘇我南町三丁目町内会	地域イベント支援	13	
12月14日	障	単	千葉県障がい者スポーツ大会(バレー)	千葉県障害者スポーツ協会	スポーツ大会支援	4	
<b>合計</b>						<b>456</b>	

\* 災害支援活動ボランティアは「災害関連ボランティア活動実績」を参照。

\* 直接学生が先方と連絡をとって実施したボランティアは一部含まれません。

\* 2019年秋～2020にかけては台風、インフルエンザ、コロナ流行などによりボランティアが多数中止(例：白旗例大祭、生実町もちつき、バラ駅伝等)。

## 2019年度 災害関連ボランティア活動実績(千葉キャンパス)

日時	種別	単発・ 継続	件名	企画元	内容	参加者 (延べ数)	備考
4月28日～30日	被災地支援 (石巻市雄勝)	継	雄勝カレンダー プロジェクト	地域支援 ボランティア センター (千葉キャンパス)	復興支援カレンダー作成のため の現地取材・傾聴	12	平成24年度から 継続中 4名×3日
8月10日～12日	被災地支援 (石巻市雄勝)	継	雄勝夏祭り	地域支援 ボランティア センター (千葉キャンパス)	「大須浜祭り」の準備・設営・ 参加	12	平成23年度から 継続中 4名×3日
9月10日～20日	被災地支援 (千葉市中央 区・若葉区)	単	台風15号被災支援	地域支援 ボランティア センター (千葉キャンパス)	がれき撤去他片付け全般	4	
9月29日	被災地支援 (千葉市中央 区)	単	台風15号被災支援	地域支援 ボランティア センター (千葉キャンパス)	がれき撤去他片付け全般	4	
10月6日	被災地支援 (千葉市中央 区)	単	台風19号被災支援	地域支援 ボランティア センター (千葉キャンパス)	がれき撤去他片付け全般	2	
12月25日～29日	被災地支援 (福島県)	継	ふくしまっ子Smile キャンプ冬 (長野県安曇郡)	浄土宗災害復興事務 所	福島県の児童に対する様々な野 外活動などの短期保養プログラ ム	40	平成27年度から 継続中 8名×5日
合計						74	

※一般ボランティアは「ボランティア活動実績(千葉キャンパス取りまとめのみ)」参照。

2019年度 ボランティア活動実績(千葉第二キャンパス)

日時	種別	単発・継続	件名	依頼元	内容	人数	備考
4月13日	他	継	淑徳オレンジカフェ(ひだまり)	ひだまり	運営支援	6	
5月11日	他	継	淑徳オレンジカフェ(ひだまり)	ひだまり	運営支援	4	
5月11日	他	単	沐浴教室	淑徳大学(母性看護学領域)	参加者への沐浴方法指導補助	2	
5月12日	他	単	蘇我いきいきセンター 健康フェスティバル	蘇我いきいきセンター	高齢者の健康測定支援	10	
5月26日	他	単	中央いきいきプラザ 健康フェスティバル	中央いきいきプラザ	高齢者の健康測定支援	5	
6月1日	他	継	淑徳オレンジカフェ(ひだまり)	ひだまり	運営支援	1	
6月8日	他	単	沐浴教室	淑徳大学(母性看護学領域)	参加者への沐浴方法指導補助	1	
6月15日	他	継	松ヶ丘中学校地区育成行事 子ども食堂(ひだまり)	松ヶ丘中学校地区地域運営委員会	献立作成、当日の運営支援	3	
6月15日	他	単	松ヶ丘中学校地区育成行事 子ども110番地域住民宅訪問	松ヶ丘中学校地区地域運営委員会	地域住民宅訪問支援	12	
6月22日	他	単	ひまわり幼稚園 フェスタ	ひまわり幼稚園	祭り運営支援	10	
6月22日	他	単	ひまわり幼稚園 フェスタのひだまり模擬店	ひまわり幼稚園	模擬店運営支援	1	
6月23日	他	単	蘇我いきいきセンター 体力測定会	蘇我いきいきセンター	高齢者の健康測定支援	3	
7月5日	他	単	ひまわり幼稚園夏祭りのひだまり模擬店	ひまわり幼稚園	祭り運営支援	5	
7月6日	他	継	淑徳オレンジカフェ(ひだまり)	ひだまり	運営支援	6	
7月7日	他	単	松ヶ丘中学校地区育成行事 子ども食堂(松ヶ丘公民館子ども夏まつりとコラボ)	松ヶ丘中学校地区地域運営委員会	祭り運営支援	5	
7月7日	他	単	松ヶ丘中学校地区育成委員会 子ども夏まつり(松ヶ丘公民館)	松ヶ丘中学校地区地域運営委員会	祭り運営支援	9	
7月7日	他	単	中央いきいきプラザ 健康フェスティバル	中央いきいきプラザ	運営支援	0	
7月13日	他	単	下志津病院ボランティア講習会	下志津病院	運営支援	0	
8月21日	他	単	下志津病院 フェスティバル	下志津病院	祭り運営支援	10	
8月24日	他	単	松ヶ丘 ふるさと祭り(夏祭り)	松ヶ丘中学校地区地域運営委員会	祭り運営支援	19	
8月24日	他	単	ひまわり幼稚園夏季休暇中保育ボランティア(8月の8日間)	ひまわり幼稚園	運営支援	18	
9月6日	他	単	千葉東病院(療育室) 秋祭り	千葉東病院	祭り運営支援	5	
9月7日	他	継	淑徳オレンジカフェ(ひだまり)	ひだまり	運営支援	5	
9月14日	他	継	松ヶ丘中学校地区育成行事 子ども食堂(ひだまり)	松ヶ丘中学校地区地域運営委員会	献立作成、当日の運営支援	4	
9月29日	他	単	松ヶ丘 敬老会(松ヶ丘中学校)	松ヶ丘中学校地区地域運営委員会	運営支援	6	
10月5日	他	継	淑徳オレンジカフェ(ひだまり)	ひだまり	運営支援	0	
10月13日	他	単	松ヶ丘 レクスポ大会(運動会)(松ヶ丘中学校)	松ヶ丘中学校地区地域運営委員会	運動会運営支援	中止	
10月13日	他	単	ひまわり幼稚園 運動会	ひまわり幼稚園	運動会運営支援	0	
10月20日	他	単	看護栄養学部健康フェスタ	淑徳大学(看護栄養学部)	運営支援	11	
11月2日	他	単	蘇我いきいきセンター 健康フェスティバル	蘇我いきいきセンター	運営支援	2	
11月9日	他	継	淑徳オレンジカフェ(ひだまり)	ひだまり	運営支援	5	
11月10日	他	継	松ヶ丘中学校地区育成行事 子ども食堂(ひだまり)	松ヶ丘中学校地区育成行事	献立作成、当日の運営支援	5	
12月7日	他	単	中央いきいきプラザ 健康フェスティバル	中央いきいきプラザ	運営支援	1	
12月7日	他	継	松ヶ丘中学校地区育成行事 子ども食堂(ひだまり)	松ヶ丘中学校地区育成行事	献立作成、当日の運営支援	5	
12月7日	他	継	淑徳オレンジカフェ(ひだまり)	ひだまり	運営支援	7	
12月7日	他	単	松ヶ丘中学校地区 マラソン大会各戸訪問	松ヶ丘中学校地区	マラソン大会運営支援	12	
12月7日	他	単	蘇我いきいきセンター センターフェスティバル	蘇我いきいきセンター	健康祭り支援	9	
12月8日	他	単	蘇我いきいきセンター センターフェスティバル	蘇我いきいきセンター	健康祭り支援	9	

2019年度 ボランティア活動実績(千葉第二キャンパス)

日時	種別	単発・継続	件名	依頼元	内容	人数	備考
12月22日	他	単	医療ケア児とそのご家族支援	淑徳大学(医療ケア児と)	運営支援	3	
1月3日	他	単	松ヶ丘中学校地区 新春マラソン大会(松ヶ丘中学校)	松ヶ丘中学校地区	運営支援	0	
1月11日	他	継	淑徳オレンジカフェ(ひだまり)	ひだまり	運営支援	0	
2月1日	他	継	淑徳オレンジカフェ(ひだまり)	ひだまり	運営支援	0	
2月1日	他	単	蘇我いきいきセンター 高齢者講座	蘇我いきいきセンター	運営支援	2	
2月8日	他	単	蘇我いきいきセンター 高齢者講座	蘇我いきいきセンター	運営支援	2	
2月22日	他	単	ポッチャ体験	淑徳大学(ポッチャ体験)	ポッチャ体験支援	0	
2月29日	他	継	松ヶ丘中学校地区育成行事 子ども食堂(ひだまり)	松ヶ丘中学校地区育成行事	献立作成、当日の運営支援	4	
3月7日	他	単	淑徳オレンジカフェ(ひだまり)	ひだまり	運営支援	3	
3月22日	他	単	医療ケア児とそのご家族支援	淑徳大学(小児看護学)	運営支援	0	
<b>合計</b>						<b>230</b>	

\* 直接学生が先方と連絡をとって実施したボランティアは含まれず。

## 2019年度 ボランティア活動実績(埼玉キャンパス)

日時	種別	単発・継続	件名	依頼元	内容	人数	備考
4月7日	教・経	継	春のおそとカフェ	板橋区おそとカフェ実行委員会	パネルシアター公演とイベント運営の補助	7	「パネルシアタークラブ PITAPETA」と「演劇サークル桜ケストラ」の活動
4月13日	教育	新規	富士見市子どもフェスティバル団結式	富士見市	打合せ参加	6	フレンドシップ
4月21日	教育	新規	富士見市子どもフェスティバル	富士見市	運営補助	16	フレンドシップ
5月17日	教	単	第19回交通安全教育技能コンクール県大会	埼玉県警察	パネルシアター発表	1	「パネルシアタークラブ PITAPETA」の活動
5月18日	経	継	横瀬町道の駅との連携事業	横瀬町	登山道落ち葉掃き	14	「観光経営専門演習Ⅲ」
6月8日	教育	継続	子ども大学☆ふじみ・子どもスポーツ大学☆ふじみ	富士見市	活動補助	48	含：フレンドシップ28名
6月15日	教育	継続	子どもスポーツ大学☆ふじみ	富士見市	活動補助	8	
7月7日	教育	継続	子どもスポーツ大学☆ふじみ	富士見市	活動補助	8	
7月13日	教育	継続	子ども大学☆ふじみ	富士見市	活動補助	12	
7月14日	教育	新規	ピースフェスティバル2020	富士見市	運営補助	6	フレンドシップ
8月9日	教	継	ポローニャブックフェア	板橋区立ポローニャ絵本館	パネルシアター公演	9	「パネルシアタークラブ PITAPETA」の活動
8月20日	教育	継続	子ども大学☆ふじみ	富士見市	活動補助	12	
8月20日	教育	継続	子どもスポーツ大学☆ふじみ	富士見市	活動補助	8	
8月24日	教	単	埼玉で開催！1年前月間イベント in 富士見 ～東京2020 開催まであと1年！～	2020オリンピック・パラリンピック 埼玉県推進組織委員会、埼玉県	パネルシアター公演とシュクトクマのぬりえ	11	「パネルシアタークラブ PITAPETA」の活動
8月28日	教	単	パネルシアターで遊ぼう！	ひざおり児童館	パネルシアター公演	3	「パネルシアタークラブ PITAPETA」の活動
8月31日	教育	継続	みずほ台祭り	富士見市	出店、運営補助	36	フレンドシップ
9月28日	教育	継続	芋ほり祭り	三芳町	出店、運営補助	48	フレンドシップ
11月24日	教	継	三芳町福祉まつり	三芳町社会福祉協議会	パネルシアター公演	13	「パネルシアタークラブ PITAPETA」の活動
12月1日	教	継	パネルシアターワークショップ	淑徳大学	パネルシアター公演と運営の補助	9	「パネルシアタークラブ PITAPETA」の活動
12月1日	教	継	第10回パネルシアター学生交流会	パネルシアター教育研究会	パネルシアター公演と運営の補助	8	「パネルシアタークラブ PITAPETA」の活動
12月3日	経	継	横瀬町道の駅との連携事業	横瀬町	登山道落ち葉掃き	13	「観光経営専門演習Ⅳ」
12月17日	教	単	クリスマス公演	すわ幼稚園	パネルシアター公演	8	「パネルシアタークラブ PITAPETA」の活動
12月20日	教	単	冬のお楽しみ会	所沢市立北小学校	パネルシアター公演	4	「パネルシアタークラブ PITAPETA」の活動
1月26日	教	継	冬のおそとカフェ	板橋区おそとカフェ実行委員会	パネルシアター公演とイベント運営の補助	8	「パネルシアタークラブ PITAPETA」の活動
2月7日	教	単	大樹の郷	大樹の郷	パネルシアター公演	6	「パネルシアタークラブ PITAPETA」の活動
4～3月	教育	継	スクールボランティア	三芳町・富士見市・川越市等教育委員会	週1度程度、自治体の公立小学校やインターナショナルスクールへ出向き、各学校の指導の下、ボランティア活動を行う。	41	
7月～8月	教育	継	夏季淑徳養成塾	三芳町・富士見市・朝霞市・入間市・所沢市教育委員会	小学生を対象とした学習サポーター、キャンプ活動スタッフとして参加。高齢者との意見交換会への参加等。	105	
4月～3月	教育	継	子育て支援プログラム／わくわく遊び隊／びよびよ（ベビーマッサージ・あそびの会）	教育学部教員・保育士養成支援センター主催	地域の子育て支援センターへ出向いたり、淑徳大学に地域の乳幼児と保護者を招き、学生による大学での学びを活かした保育実践やレクリエーション、教員によるベビーマッサージ等の講座を行う。	60	
6月～11月	教育	継	こども大学みよし	こども大学みよし実行委員会（事務局：三芳町教育委員会中央公民館）	三芳町内在住の4～6年生を対象に（6月～11月）全6回に渡り、地域の施設や人的財産を活用した学び&交流の場を提供するスタッフとして参加。	12	
6月～1月	経営	継	三芳町まつり	三芳町役場及び楯周辺	大学の授業内ではあるが、学生ボランティアを派遣。祭りの準備から、当日、振り返り・提案まで。（6月～11月）	30	経営学部「ボランティア研修」
<b>合計</b>						<b>570</b>	

\*直接学生が先方と連絡をとって実施したボランティアも含まれています。（教育学部）

\*直接学生が先方と連絡をとって実施したボランティアは含まれません。（経営学部）

\*備考「ボランティア研修」は、授業の一環として行ったもの（経営学部）

\*単位取得できる科目としてのボランティアは含んでいません。（教育学部）

## 2019年度 ボランティア活動実績(東京キャンパス)

日時	種別	単発・継続	件名	依頼元	内容	人数	備考
6月15日			板橋区「こども食堂」状況報告 & 政策提案 発表会	板橋フォーラム	司会	1	
7月12日			夏のおそとカフェ	おそとカフェ赤塚実行委員会	イベント補助	2	
7月31日～ 8月2日			石巻市雄勝小学校・中学校学習支援ボランティア	淑徳大学地域支援ボランティアセンター	小学校で夏休みの学習支援と交流	1	
8月			夏のボランティア体験	いたばし総合ボランティアセンター	保育園での体験活動	2	
8月31日			BOSAI競技大会	和光市 危機管理室	イベント補助	1	
9月21日			天祖神社例祭	天祖神社	放送担当、親子向けゴミ拾い企画	9	
10月～2月			ニュースレター編集	VC	取材・編集・デザイン等	3	
10月6日			台風15号 災害支援ボランティア	淑徳大学地域支援ボランティアセンター	南房総市内民家での片付け作業	1	
			板橋区教育委員会 学習支援ボランティア	板橋区教育委員会	区内小中学生での学習支援	11	
10月27日			上板橋まもりん坊こどもまつり	上板橋北口商店街	遊びコーナー補助	16	
11月2日			八潮子ども夢大学	八潮市教育委員会	大学体験	29	
11月16日			パラフェス2019	日本財団パラリンピックサポートセンター	パラスポーツ体験コーナー補助	6	
2月12日～ 14日			東日本大震災復興支援プログラムスタディーツアー	淑徳大学地域支援ボランティアセンター	スタディーツアー(福島)	1	
2月14日			野球クラブ	前野小あいキッズ	野球指導・交流	3	
2月21日～23日			長野県ボランティアツアー(文化財保安)	VC	長野市立博物館史料レスキュー	8	
<b>合計</b>						<b>94</b>	

\* 直接学生が先方と連絡をとって実施したボランティアは含まれません。

## 2019年度 ボランティア活動実績(東京キャンパス)

<短大共生体験>

日時	種別	単発・継続	件名	依頼元	内容	人数	備考
4月28日			こいのぼり	けやきの公園	祭りでの子ども支援	9	
4月28日			ニリンソウの保全活動	ニリンソウを保存する会	ニリンソウ保全のための除草作業	10	
5月11日			ときわ台つ・つ・つGARDEN	実行委員会	イベント補助	7	
5月18日			福祉の里まつり	和光苑	高齢者施設のお祭り支援	2	
5月19日			国立公民館 親子活動	国立公民館	イベント補助	14	
5月19日			じゆうじん	じゆうじん	知的障がいのある方との外出	2	
5月26日			わんぱく相撲	実行委員会	運営補助	7	
5月26日			広場あすなろ	板橋区教育委員会(まなぼーと)	知的障がいのある方の余暇支援支援	2	
5月26日			仲宿地区まつり	氷川児童館	児童館コーナー(工作・着ぐるみ)補助	6	
5月～6月			前野町子ども食堂	わくわくランド	子ども見守り	4	
5月～9月			森の家 ボウリング	イベント補助	障がいのある方とボウリング	11	
6月8日			日本語教室	ことばのひろば	日本語教室 交流	2	
6月9日			板橋ふれあい祭	実行委員会	お祭り運営、模擬店の補助	5	
6月22日			キャンドルナイト イン いたばし	いたばし総合ボランティアセンター	イベントでの子ども対応・準備	9	
6月30日			七夕まつり	けやきの公園	祭りでの子ども支援	11	
6月30日～ 12月1日			ほほえみの会 (スポーツ交流・クリスマス会)	ほほえみの会	活動補助	11	
6月～9月			みどりの苑 おしゃべりの会	特別養護老人ホームみどりの苑	話し相手の活動	10	
6月～9月			ひとさじの会	ひとさじの会	路上生活者支援	20	
7月13日			赤塚福祉園祭	赤塚福祉園	知的障がい者施設イベント補助	6	
8月9日			移動水族館	オーネスト成増	高齢者施設イベント補助	5	
7月21日			納涼祭	小茂根の郷	高齢者施設イベント補助	9	
7月21日			夏のおそとカフェ	チーム赤塚	地域イベント補助	4	
7月26日			納涼祭	高島平福祉園	障がい者支援施設 イベント補助	6	
7月28日			納涼祭	特別養護老人ホームさくら館	高齢者施設イベント補助	6	
8月3日			納涼祭	あずさわの里	高齢者施設イベント補助	13	
8月4日			一日大学体験	VC	知的障がい者事業補助	9	
8月5日～20日			夏休みこどもひろば	さーとぶれいす@まもりん坊ハウス	イベントでの子ども対応・準備	9	
8月6日～ 9月7日			病院ボランティア	総合東京病院	受付案内	130	
8月9日			納涼祭	更生施設ふじみ	イベント補助	2	
8月17日			みどりの苑 夢のダンス	特別養護老人ホームみどりの苑	車いすダンス活動の補助	6	
8月17日			ユニバーサルスマイルキッズコンサート	実行委員会(共催)	障がい児 コンサート運営	13	
8月21日			保育園	ソラスト前野町	子ども見守り	3	
8月31日			夏祭り	介護老人保健施設プリムローズ	高齢者施設イベント補助	9	
8月31日			BOSAI競技大会	和光市 危機管理室	イベント補助	3	
8月31日			納涼祭	ふれあいの里	ろう重複者、ろう高齢者施設イベント補助	2	
8月～9月			デイサービス	ソラストときわ台デイサービス	話相手、おやつ準備他	6	
8月～9月			学習支援	板橋区立桜川小学校	学習支援	16	
8月			花火鑑賞会・移動水族館	オーネスト成増	高齢者施設イベント補助	11	
9月1日～2日			東日本大震災ボランティア	VC	すくのび広場 子育て支援	13	
9月8日			子育て支援講座	国立公民館	講座補助	9	
9月21日			天祖神社例祭	天祖神社	案内係、親子向けごみ拾い企画補助	6	
11月3日			すくすくまつり	子育て支援イベント	工作補助	4	
<b>合計</b>						<b>442</b>	

\*直接学生が先方と連絡をとって実施したボランティアは含まれず。

## 2019年度 ボランティア活動実績(東京キャンパス)

<共生体験除く>

日時	種別	単発・継続	件名	依頼元	内容	人数	備考
4月14日			ほほえみの会乳幼児活動	板橋区ダウン症児・者親の会 (ほほえみの会)	おもちゃ遊び	3	
5月～2月			びち教室(親子遊び)	VC	講座運営補助等	52	
7月～2月			ベビーマッサージ教室	VC	講座運営補助等	11	
6月30日			ほほえみの会スポーツ交流	板橋区ダウン症児・者親の会 (ほほえみの会)	スポーツ交流	5	
7月			赤ちゃん、まだ話さないお子さんとのコミュニケーションーベビーサインを中心にー	VC	講座運営補助等	14	
7月26日			納涼祭	高島平福祉園	イベント補助	1	
8月4日			一日大学体験	VC	知的障がい者事業補助	19	
9月～11月			音楽と遊ぼう	VC	知的障がい者生涯学習支援事業 企画運営	92	
10月19日			常盤台小学校 国際交流授業	板橋区立常盤台小学校	ゲストとして子どもたちと交流	1	
10月14日			スポーツ祭り2019	スポーツ庁他	パラスポーツコーナー補助	1	
11月			台風15号 災害支援ボランティア	淑徳大学地域支援ボランティアセンター	長柄町民家での土砂運搬作業	3	
11月9日			びち教室(つき遊び)	VC	講座運営補助等	16	
11月10日			いもの子作業所	川越いもの子作業所	障がい者施設イベント補助	2	
11月16日			2019パラフェス	日本財団 パラリンピックサポートセンター	パラスポーツコーナー補助	1	
1月23、31日			大学で遊ぼう	VC	運営補助	3	
2月			東日本大震災ボランティア	VC	すくのび広場 子育て支援	8	
<b>合計</b>						<b>232</b>	

\*直接学生が先方と連絡をとって実施したボランティアは含まれず。

令和元年度

淑徳大学地域支援ボランティアセンター活動報告書

〒260-8701 千葉県千葉市中央区大巖寺町 200

TEL. 043-265-7331 (代表) FAX. 043-265-8310 (代表)

